

平成 17 年度

まちづくり懇談会 記 録 誌



平成 18 年 2 月
入 善 町

目 次

まちづくり懇談会の概要	1
-------------	---

第 1 部

町政についての現況説明

スマート I C 社会実験について（企画財政課）	9
--------------------------	---

第 2 部

地域課題・地域づくり

入善地区	10
上原地区	19
青木地区	28
飯野地区	36
小摺戸地区	44
新屋地区	51
櫛山地区	56
横山地区	62
舟見地区	69
野中地区	77

まちづくり懇談会の概要

1. 実施要項

2. 開催次第

3. 参加者数及び一覧表

———— 平成 17 年度「まちづくり懇談会」実施要項 ————

1. 趣旨

行政からの情報公開と住民からの広聴活動を拡充し、住民の意見を把握・反映するためまちづくり懇談会を開催する。

2. 開催内容

(1) テーマ

依頼事項 「スマート I C 社会実験の実施について」

協議事項 「これからの地域づくり～わがまちづくりは自らの手で～」

今、地域ぐるみでの安全・安心のまちづくりや環境対策、少子高齢化支援など、それを支える地域づくりが求められています。

今年度においては、これからの地域づくりを考える上で、「自助」「共助」「公助」をキーワードに懇談会における議論を展開してまいりたいと考えています。

①地域が抱える課題を抽出（安全・安心、福祉、環境問題等）

②課題解決にどのような取り組みが必要であるか

③そのために ア 町民が出来ること（自助）

イ 地域で出来ること（共助）

ウ 行政に求めること（公助）

(2) 進行

地元主導で進行する。

(3) 要望

道路、用排水路改修などの個別要望事項については、後日文書で回答する。

(4) 出席者

町長、助役、収入役、教育長

総務課長、企画財政課長、建設課長、健康福祉課長、地域課題担当課長、地元課長

(5) ご意見カード

- ・出席者に当日の協議内容について意見、要望、提言を終了後に提出してもらう。
- ・記録として意見提言をまとめ、町政執行上の参考とする。

3. 開催期日

平成 17 年 11 月 8 日（火）～11 月 26 日（土）

4. 開催時間

午後 7 時 30 分～午後 9 時

———— 平成 17 年度 まちづくり懇談会 開催次第 ————

日 時： 平成 17 年 11 月 8 日（火）～26 日（土）

午後 7 時 30 分～

会 場： 町内 10 地区公民館

1. あいさつ

2. 町政についての現況説明

3. スマート I C 社会実験について

4. 地域課題と地域づくりについて

5. 閉会

—— まちづくり懇談会参加人数及び一覧表 ——

地 区 名	参加人数	H16	開 催 日	前 年 比
入 善	136	69	11 月 26 日 (土)	67
上 原	102	95	11 月 22 日 (火)	7
青 木	50	60	11 月 21 日 (月)	▲ 10
飯 野	71	89	11 月 20 日 (日)	▲ 18
小摺戸	43	42	11 月 9 日 (水)	1
新 屋	65	68	11 月 8 日 (火)	▲ 3
櫛 山	105	52	11 月 11 日 (金)	53
横 山	85	86	11 月 10 日 (木)	▲ 1
舟 見	61	68	11 月 23 日 (水)	▲ 7
野 中	68	28	11 月 17 日 (木)	40
合 計	786	657		129

日		11 月 26 日（土）	11 月 22 日（火）
地 区		入 善	上 原
開催場所		武村福祉会館	産業展示会館
区長会長		米澤 勇	森 茂
司 会		田中 隆義	浦田 正志
座 長		田中 修	森 真理子
地域課題		・入善町の合併について ・地区防災対策について	・地域環境の美化のために ～ごみ問題を考える～
出席者	四 役	町長 助役	町長 助役 教育長
	課 長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 住民環境課長 議会事務局長
	議 員	大橋 美椰子	中瀬 範幸 元島 正隆
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		136 人	102 人
世 帯 数		2,235 世帯	957 世帯

日		11 月 21 日（月）	11 月 20 日（日）
地 区		青木	飯野
開催場所		働く婦人の家	農村環境改善センター
区長会長		菅田 英一	本多 宗高
司 会		西川 信一	本多 宗高
座 長		西川 信一	笹島 子平
地域課題		・行財政改革の現状と成果について ・少子化対策（子育て支援）について ・防犯対策（交通安全）について	・入善西部地区企業誘致等の商工業振興策（大型商業施設の出店に対する考え方）について ・海洋深層水工業団地の今後の企業進出の見通し及び空き地の環境整備等について ・空き家の防犯などの対策について
出席者	四 役	町長 助役 教育長	町長 助役 教育長
	課 長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 生涯学習・スポーツ課長 農政課長 下水道課長 消防署長	企画財政課長 総務課長 建設課長 商工水産・深層水課長 住民環境課長 健康福祉課長 下水道課長 農政課長（農地係長）
	議 員	松沢 孝浩	長田 武志 本多 幸男 山下 勇
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		50 人	71 人
世 帯 数		564 世帯	1,540 世帯

日		11月9日（水）	11月8日（火）
地 区		小摺戸	新 屋
開催場所		小摺戸地区公民館	新屋地区公民館
区長会長		杉本 満夫	鬼原 猛
司 会		柳澤 一文	林 吉朗
座 長		柳澤 一文	鬼原 猛
地域課題		・町道小摺戸中坪線の拡幅工事について ・ダム排砂の時期について ・入善米のPRを兼ねた町おこしの工夫について	・南部コミュニティセンター等の将来像について
出席者	四 役	町長 助役 教育長	町長 収入役 教育長
	課 長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 農政課長 商工水産・深層水課長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 商工水産・深層水課長 生涯学習・スポーツ課長
	議 員	鬼原 征彦	鬼原 征彦
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		43 人	65 人
世 帯 数		400 世帯	554 世帯

日		11 月 11 日（金）	11 月 10 日（木）
地 区		梶 山	横 山
開催場所		梶山地区公民館	横山漁村センター
区長会長		上島 幸夫	尾谷 善政
司 会		石田 敏昭	亀田 啓一
座 長		大田 一郎	野口 勲
地域課題		・梶山用水、横山用水を中心とした川について考える	・桃李小学校への通学路道路整備について ・勤労者総合スポーツ施設運動場、桜並木道路の整備について ・漁村センター（憩ホール）の建設について ・海岸（離岸堤、海浜公園、防潮林）整備について
出席者	四 役	町長 助役 教育長	町長 助役 教育長
	課 長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 住民環境課長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 学校教育課長 生涯学習・スポーツ課長 （スポーツ係長） 税務課長 住民環境課長
	議 員	谷口 一男	松田 俊弘
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		105 人	85 人
世 帯 数		750 世帯	557 世帯

日		11 月 23 日（水）	11 月 17 日（木）
地 区		舟 見	野 中
開催場所		舟見コミュニティ公民館	農村婦人の家
区長会長		野島 政博	金森 幹雄
司 会		舟見 友憲	金森 幹雄
座 長		西尾 俊文	金森 幹雄
地域課題		・少子高齢化社会に向けた対策について ・市町村合併と今後における周辺地域について ・舟見山周辺整備について ・地域の安全と安心を守るために ・冬期間の除雪と溢水対策について	・地域防災について ・除雪対策について ・主要地方道黒部朝日公園線の整備について ・農村婦人の家のトイレ改修について ・あぐり館グラウンド内整備について ・防犯パトロール隊への助成について
出席者	四 役	町長 助役 教育長	町長 助役 教育長
	課 長	企画財政課長 総務課長 建設課長 健康福祉課長 農政課長 商工水産・深層水課長 学校教育課長	企画財政課長 総務課長 建設課長（業務用地係長） 健康福祉課長 下水道課長 生涯学習・スポーツ課長
	議 員	大林 政雄 九里 郁子	大林 政雄 九里 郁子
	事務局	財政係長 企画調整係長 企画調整係	財政係長 企画調整係長 企画調整係
参加者数		61 人	68 人
世 帯 数		450 世帯	234 世帯

町政についての現況説明

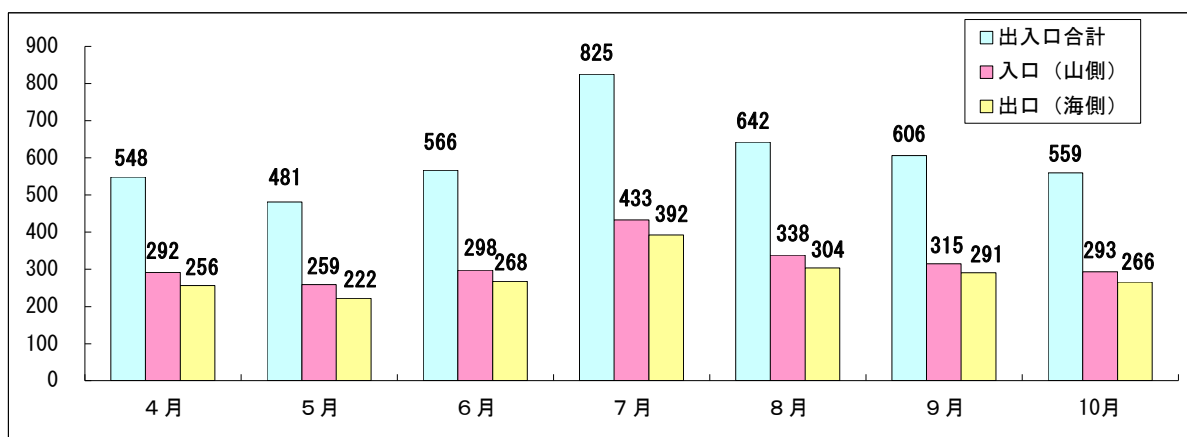
スマート I C

社会実験について

・ ・ ・ 企画財政課

—— 入善 P A スマート I C 社会実験の状況 ——

■ 1 日平均利用台数の月次推移

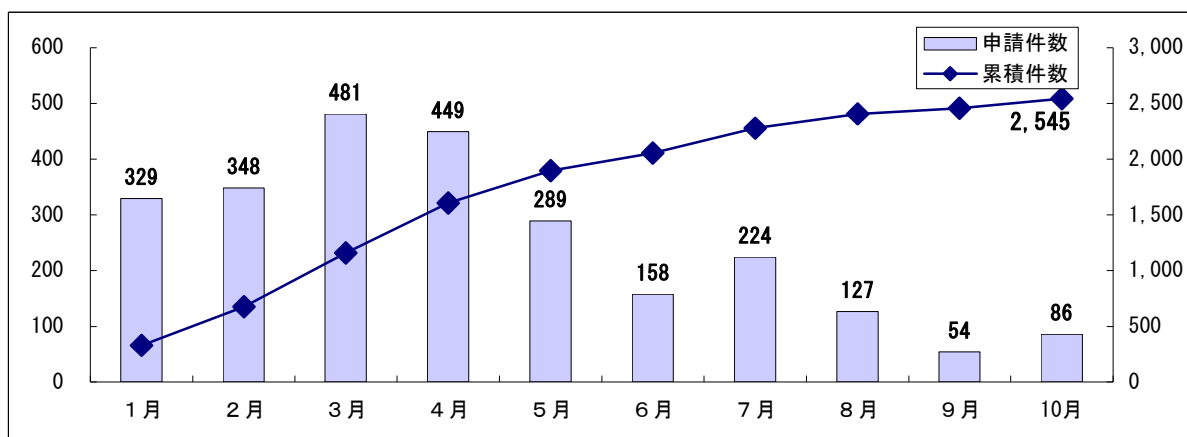


※ 6 月平均利用台数 566 台は **全国 28 箇所中・・・5 位**（「6 月高速道路月報」から）

※ 7 月平均利用台数 825 台は **全国 28 箇所中・・・4 位**（「使えるハイウェイ推進会議資料」から）

■ E T C 車載器搭載促進補助金申請件数の推移

※入善町内の E T C 車載器の搭載率・・・**16.2%**（11 月 7 日現在）



・ 町内の運輸局登録台数 15, 681 台（普通車・軽自動車のみ）

※富山県内の搭載台数に占める割合・・・**8.0%**（11 月 7 日現在）

・ 県内の E T C 車載器新規搭載台数 31, 703 台（1～10 月分：普通車・軽自動車のみ）

■ 今後の動き

①大型車の通行実験（富山方面のみ）の実施

大型車対応工事に伴い入善 I C を一時通行止めにします

通行止め期間：11 月 14 日（月）～12 月末

②新潟方面への通行実験（全方向・全車種）の実施

実験の体制が整えば実験終了（平成 18 年 3 月 31 日を予定）までに実施予定

地域課題・地域づくり

入善地区

日時：平成 17 年 11 月 26 日（土）

会場：武村福祉会館

(1) 入善町の合併について

☆住民

現在、町は合併についてどのような方向性、考えを持っているのか。

★町長

昨年6月に合併協議会から離脱し、結果的に1市3町での合併は破綻となった。

当時を振り返ると、合併の基本理念であった「対等互恵」の精神が、協議が進むにつれて損なわれていったことが大きな原因だったと思う。それが町民のためにならないと判断した。そして、議会、合併協議会委員の皆さんに相談をしながらまず協議を凍結し、離脱となった。

私は、当時から言っているが、合併は否定するものではないと思っているし、むしろ、皆さんの利便性を考えると必要なものだと思っている。特に今、地方公共団体を取り巻く財政的な環境というのは、三位一体の改革等により、今後、ますます厳しいものになると予想される。住民福祉サービスの維持を続けるため、さらなる小さな行政組織への移行が求められているところである。

しかし、単に合併すれば良いというものではない。町民の皆さんの合併への理解と気運の盛り上がり、さらに互いを尊重する対等互恵の精神が必要である。

今後、町民の皆さんのための合併を基本に町民や議会の皆さん方に相談しながら、歴史的な結びつきの深い新川地域での合併も視野に入れて、慎重かつ大胆に取り組んでいきたい。これまでも火葬やし尿、ごみ処理などを新川地域で広域的に行っているので、できればこのような事務的にも関係の深い地域で合併したい。

皆さん方の意見があれば教えていただきたい。

☆住民

入善町の観光推進と中心市街地の活性化についてはどう考えているか。

★企画財政課長

入善町は観光資源にはそれほど恵まれていないのは事実である。

町でも観光のための協議会を設け、中心商店街の活性化などを検討しているが、これといった具体的な方策が無いのが実情かと思う。宇奈月町や朝日町はそれなりの観光資源を持っており、観光の面から考えていくと資源に恵まれているというメリットがあるかと思う。

中心市街地の活性化については、過去に何度も計画を立ててはいるものの、思うようにいかない部分もあったが、改めて武村福祉会館、旧中央公民館跡地を中心とした施設整備・見直しを図り、中心市街地の核づくりを行っていきたい。

また、現在実験を行っているスマートＩＣが本格設置になると、インターチェンジ～8号線～中心市街地を「都市軸」と位置づけ、開発整備を総合計画後期計画で位置づけていきたい。

☆住民

合併は新川地域全体でという話があったが、今後、それは実現可能かどうか。朝日町と入善町という噂もある。魚津市がその中に入ってくるのか。

★町長

今はまだお互いにそのような話はしていない。これから話が出てくるかもしれないが、先程話したとおり、町民や議会等いろいろなところから合併についての気運がある程度盛り上がってこないと進まない。

ただ、新川地域での合併は、最初は2市3町という話が出ていた。ところが魚津市が抜け、1市3町で話を進めていたが、結果的に破綻という形になった。将来的に朝日と入善で合併するよりは、できればいろいろなことを共同で運営している2市3町するのが良い。気運の盛り上がりが必要である。

単独町政を選択した以上は、一生懸命に行財政改革を進めながら皆さんにご協力いただくこともあると思う。特に今言われている、「自助・共助・公助」でお互い助け合いながらまちづくりを推進していきたい。

(2) 地域防災対策について

☆住民

今年、全地区で自主防災会が立ち上がったとのことだが、入善地区も結成して5年以上が経過している。全地区で結成された現在の自主防災会は、実際に災害が起きた時に機能するのかと疑問もある。

地区単位だけでなく町内会単位でも組織が結成されているところもあると聞く。そういった中で、地区単位で組織された自主防災会がこのままで機能できるのか疑問である。今後、町はこの防災会が有事に機能するようにどのような指導をしていくつもりなのか。

★総務課長

新年度において町の防災連絡協議会を設置し、情報交換や減災社会に対応したシステムの構築などに向けた話し合いの場をつくりたいと検討している。

10地区の組織ができたが、その下には130の町内会があるので、いかに有機的に各校区に連携させられるかなど、町防災連絡協議会の中でも皆さんと相談しながら考えていきたい。

☆住民

新聞を見ても殺人等、凶悪な事件の記事がとても多い。これからの防犯をどう考えていくのか。行政はどうするのか、警察との連携はどう取っていくのか。

★総務課長

安全・安心のまちづくりの中で、防犯パトロール隊の結成を進めている。

今年は5地区で、警察、PTA、地域の防犯組合、区長会、各種団体と連携して入善地区においても150名程のメンバーで組織された。地域のことは地域で守るという観点から、今後、町でも支援していきたい。

防災会との絡みであるが、10地区に防犯パトロール隊ができれば自主防災会とどう連携を取るか、防災、防犯ともに対応できる組織づくりを検討するために皆さんのご意見を伺いたい。

☆住民

何かあった場合の緊急連絡をどうするのか。地区だけではできないこともあり、行政や警察等と一体になってどう動くのか。

★総務課長

町には防災対策本部があり、警察や消防あるいは町関係団体と連携している。現在、特に避難場所や避難経路、初期活動の対応といった内容について新たな「防災マップ」を作成しており、3月末頃に完成すると考えている。

現在、皆さんにお知らせしている防災マップでは入善地区に9ヶ所の避難場所があるが、これに入善高校の体育館とNECの体育館を加えられないか話し合っており、そこにも避難できるマップづくりを検討している。

有事の際の対応として、例えば、震度3の地震があった場合は消防署、建設課、総務課が待機している。また、雪や台風の場合にも待機している。国や県、関係機関と連絡体制を取っているので、何かあればすぐに役場に連絡をしていただきたい。防災行政無線でのお知らせや、みらーれテレビでの字幕情報など、これからも機動力のある組織をつくっていきたい。

☆住民

防犯パトロール隊の話が出たが、入善地区でも会合があった。

仮に趣旨に賛同していても、ボランティアで参加し、事故があった場合の保障等はどうするのか。

☆住民

防犯パトロール隊の活動時の事故保障については、ボランティア活動保険というものがある。掛け金は年間300円で、うち県の補助が100円あり、実質200円の負担になる。万が一、パトロールのボランティア中に事故で亡くなった場合は1,162万円、入院の場合は1日6千円の保障がある。登録していただいた180名の隊員全員が加入している。

☆住民

市街地の水路の改修予定はないか。水路をもう少し大きくして水の流れを良くしてほしい。

い。市街地の水路は、狭くてごみが詰まり、火災の際に放水もできない箇所がたくさん見られる。行政による対応をお願いしたい。

★助役

特に市街地で水路の断面を確保するのは困難なところである。幅を広げれば事故の可能性があり、また、蓋をすると万一の時に間に合わなくなる。郊外はそれなりに改修しやすいが、市街地はそれらの理由により困難である。ただ、他の市町村から比べると入善町は水路が多く、水量も一部を除きある程度多く、充実していると思う。

しかし、逆に水嵩が上がると災害に繋がる危険性もある。そのバランスをコントロールができないのが悩みである。火災等についても消防署と整理をし、例えば、防火水槽などの設置が考えられる。今のご意見を我々も気にはしているが、実際に設置する場合には、用地の問題もあり、そういう意味では何とも言えず悩ましい。今後、消防署とどこを重点的にかつ計画的に整備すべきか相談しながら事業にあたっていきたい。

☆住民

昨年、懇談会の場で総務課長は今年の秋を目指して入善町の防災ハザードマップを作りたいと話していた。実際に作られているのか。

また、小学校等に避難場所の表示があるが、一般にはなかなか周知されていない。避難場所を含めて、例えば、各地区に本部や支部、救援隊等の部署を置くなどの体制作りを考えているのか。

★総務課長

今年7月に国土交通省と1市3町で黒部川洪水ハザードマップを作った。現在これは、消防屯所、公民館や学校等の公共施設に配布している。

これを踏まえて現在、地震や洪水、台風の場合などを含めて検討している。特に、障害者や高齢者などの要援護者の方々をどのように避難させるかを、国土交通省の研究機関とタイアップして検討委員会を作っている。町全体の防災マップを3月頃までに作成し、全戸配布したい。また、避難経路や標識については委員会を踏まえて検討する。

☆住民

これまで、各地区において防災訓練を実施し、訓練の必要性を実感しているが、中心市街地での訓練はないような気がする。町として訓練の計画はあるのか。

★総務課長

これまでの防災訓練は、各地区の自主防災会立ち上げの際、同時に防災訓練を実施していた。入善地区では平成11年度に結成されてからかなりの時間が経過している。今年は青木、小摺戸、野中3地区の合同訓練で、地区での避難誘導、初期消火活動、起震車による地震体験等、初期的な活動の訓練を実施した後、総合訓練として権蔵橋下の河川敷で皆さんに見ていただくような蛇籠や土嚢積等の訓練を実施した。このような総合訓練をするよ

うな位置づけが必要かと思う。

また、住宅が集中した地域では、各町内会でのバケツリレーや、防災マップに記載された避難場所への避難誘導訓練などをお願いしたい。「自助・共助」特に共助ということは防災において一番重要なことであり、町内会などのよりきめ細かなコミュニティによる共助の体制作りをお願いしたい。

★助役

ご提案はこれからの防災に欠かすことのできないものである。幸い、今年で町内全 10 地区に自主防災会が結成されたが、これで終わりとは思っていない。これからが出発であり、これらの組織をどの様に連携させるか、あるいは警察や社会福祉協議会等とどの様に連携していくか。

今年、小摺戸地区で行った防災訓練は中越地震等の影響もあり、大勢の方に来ていただいた。年々、防災に対する関心が高まっている。隣県で絶えず水害や地震があると否が応にも関心が高まってくる。

これからの町の防災については、いかに災害時の被害を少なくするか、いわゆる減災をどのように進めていくかが重要である。しばらく時間がかかると思うが、自主防災会という基礎はできたので、これからは、どのように実動に向けていくか、皆さんと相談したい。言い過ぎかもしれないが、関係者だけが集まって来られたような防災訓練も過去にはあったような気がするが、最近は全体的な意識が高まっており、懇談会の中でこのような積極的な意見が出てきて、私も非常に心強いと感じた。

これからが出発点なので、皆さんにも地域減災の推進にご協力賜りたい。

☆住民

入善西中学校の耐震補強工事の話があったが、最近テレビを賑せている建築基準に関する問題がある。耐震工事は一体どのくらいの規模の地震に耐えられるのか。

★助役

震度 7 までの地震に耐えられるような設計になっている。

☆住民

現在、地区の屋外に設置されている防災無線の拡声器が壊れて修理中である。定期的に点検し、常に有事に備えていただきたい。また、故障中の場合には、周辺住民への周知をお願いしたい。たまたま放送されなかったので調べたら壊れていたということのないようお願いしたい。

★総務課長

十分点検したい。

☆住民

入善町の防災対策を見ると水防が主体になっているように感じる。例えば、地震により黒四ダムが決壊した場合どうなるかといったシミュレーションはしているか。

★助役

関係者の皆さんに聞くと絶対に大丈夫だと言う。絶対と言うからにはそれも想定したものだと思う。

(3) その他

☆住民

飯野地区で大型店舗の話が2、3度あったが、その後どうなったのか。

町は将来、どの辺りを中心に町の拠点づくりを計画しているのか。魚津市も黒部市も、中心は元の中心商店街から8号線沿いに移動している。新幹線が開通すれば中心は移動するだろうし、新しい拠点を置くとしたらどの辺りを考えているのか。

★助役

県に立地通商課という課がある。サンリッツの誘致も県との協力のもと実現したものである。県は富山県内でこのような大型の誘致が可能な箇所としてまず入善町を紹介したいと公言している。

今まではどちらかといえば、東京等から見ると日本海側は完全に裏日本だった。冬期は雪が降り、交通状況も良くないと盛んに言われている。しかし、今まで開発されていなかったからこそ、このように立地可能な箇所がある。農振除外等の問題の中で今まで守られてきた面もあるが、県が言うには、広大な土地があり、地震等の災害の記録もあまりなく、水が豊富にある箇所は入善町しかないということである。水があれば良いというものではなく、入善町の水は、工業に適した水質であることが分析の結果判っている。例えば、半導体というのは一番水質を求める業種であるが、半導体企業にも適しているとお墨付きをもらっている。

企業誘致＝（イコール）町の活性化のすべてとは言わないが、人に住んでもらわないことには活性化にも繋がらない。そういう意味では、企業誘致は町活性化の大きな手段であり、非常に厳しい企業誘致合戦ではあるが、県にもそのような言葉をいただいております、これからも積極的に企業誘致を推進していきたい。また、どういう企業でも良いとは思っていない。環境を大切に、地元雇用を確保していただける企業にぜひ来ていただきたい。

先ほど話に出たスマートICだが、ある程度負担をしなければならないが、イメージアップに繋がるのは紛れもない事実である。日本の道路地図に入善スマートICと商業料なしに表示されるのである。こういうことが町のイメージアップに繋がる。また、他市町村に比べて入善スマートICは町の中心部に近い距離にあることから、市街地の活性化も期待できるものと考えている。

皆さんと知恵を出し合ってまちづくりを進めなければならないし、今まではご指摘のとおり若干対応が遅い面、なかなか過去の状況を打破できなかった部分があるが、私共も必死になって活性化に繋げていきたい。

逆にいうと、私は合併したからといって、必ずしも入善町が発展するとは思っていない。むしろ中心部が他へ移動してしまい、危険な状態になってしまうかもしれない。合併議論と中心市街地活性化は別次元の問題だと思っている。

スマートＩＣや企業誘致など、いろいろなことを起爆剤として、皆さんとともに町の活性化のために頑張っていきたい。

☆住民

NHKの高校生に対するアンケートの中で、過半数が地元に戻って住みたい、働きたいとの回答があった。

企業誘致は地元活性化にも繋がるし、将来の少子化対策についても有効だと思う。ぜひとも地元の若者を重点的に採用してほしい。

☆住民

国道８号バイパスについて、１４年前に１度建設省から図面がまわってきた。それ以来音沙汰がないが、現在の状況はどのようなになっているのか。

★建設課長

国道８号バイパスについては、現在、上野から黒部にかけて国土交通省は力を入れており、この区間については平成１８年度中に完成させたいとしている。

そこから東側は、現道拡幅となるわけだが、まだ事業認可されていない。恐らく現在のバイパス完成以降になるのではないかと思います。

☆住民

現在、旧中央公民館跡地に交流施設を建設する構想があると聞いている。その際に商工会館も武村福社会館も取り壊すように聞いているが、構想があるかどうかについて聞きたい。

また、武村福社会館等を壊すということであれば、東洋紡社宅あるいは花月公園も含めて一体的な整備の検討をお願いしたい。

★企画財政課長

武村福社会館は耐震構造になっていない。寄付をいただいた建物ということで大切に使ってきたが、入善地区の皆さんの全体的な避難場所としては適当でない建物なので、旧中央公民館跡地に多目的ホール、あるいは入善地区公民館の代替機能を持った施設を建てたい。武村福社会館跡地や花月公園についても一体的な整備が必要であり、地元、議会の皆さんとどのように整備すべきか十分協議をしていきたい。

☆住民

入善駅の利用について、北陸新幹線開通後、第三セクターによる運営になるといっているが、高齢者は交通手段がないので公共交通手段を利用したい。今後の公共交通手段はどのように確保していくのか聞きたい。

★助役

北陸新幹線開通による並行在来線の第三セクター化は、国と会社との約束なので恐らくそうなるだろう。

そこで、富山県では4月に富山県並行在来線対策協議会を設立し、これからどうすれば良いか、採算性の問題等を議論しているところである。8、9年後に開通するだろうと言われているが、それからでは遅いので、4、5年のうちにきちんとした方針が固まるものと思う。

町民の利便性が低下しないよう、頑張っていく。

———— 入善地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 老若男女問わず、地区住民が集まることのできる施設の整備を
- 深層水をもっと有効に利活用してほしい
- 独居高齢者世帯の避難体制を明確に
- 防災訓練は高齢者や児童も参加できるものを
- 新幹線開通へ向けた計画のアピールを
- 国道８号から入善小学校への歩道が狭くて危険である
- 合併の賛否は高密度のアンケートと住民投票によるべきである
- 防災に対する周知徹底を
- 観光名所や特産物の充実を

地域課題・地域づくり

上原地区

日時：平成 17 年 11 月 22 日（火）

会場：産業展示会館

(1) 地域環境の美化のために ～ゴミ問題を考える～

☆住民

ごみ箱という字が美しさを護るという字を書いた文学もあったが、うまいことを書くものだった。ごみとは元々役に立ったものが役に立たなくなったもの。つまり昔は、使い尽くしてもう使えなくなった物をごみとして出していた。

私たちが小さい頃、ごみはほとんどなかった。生ごみは田に撒けば堆肥となるし、紙は廃品回収、中にはトイレットペーパー代わりに使っていた。ビンや牛乳ビンや一升瓶すべてリサイクルされていた。出るものはたまに食べる缶詰の缶くらいしかなかった。

それが急に大量消費の時代になり、衛生確保や大量物流、長期保存といった目的で容器包装が開発された。それによって各種プラスチック類、あるいは缶類、びん類といった初めから捨てられる目的で作られたものが現在のごみの問題になっているものと思う。

私たち人間は、一旦楽さと便利さを覚えるとなかなか元には戻れない。一旦捨てるべき物という潜在意識をもつと、それを変えるのは難しいところもある。

何にせよ、どう捨てられようが廃棄されようが、捨てられたごみは地球にとっては厄介な物でしかない。今日はごみについて討論となったが、地域の課題として分別がうまくいっていない。区長になって初めて分かる。普通の不燃物ごみならば、放って置いても1週間もすれば回収してもらえるが、その中に缶が入っていれば放置されたままになる。中身を分別して、缶を出さなければならない。それが区長の役目みたいなもので、他の地区では家で名前を書かせるところもあるという話を聞いている。

この分別の問題、あるいは便利さと道路に捨てるポイ捨て。道路ばかりでなく田にも捨ててある。最近では田には見られなくなったけれど、結局川に捨てて、そのごみは海へ流れている。

海岸に捨てられたごみがすごい。最近では中国や韓国の物、日本海は海の捨て場とされているくらいにポイ捨てのなれの果てが海の環境を悪化させるという問題も起きている。

近頃は外国人が多くなり、言葉が通じない等から分別や収集日の規定が乱れている。

どうしても人間一人ひとりの意識を変えないとごみ問題は解決しないのではないかと。便利さばかりを追求して生きる時代は過ぎた。暮らしの中に少しでも「もったいない」という意識を持てば、ごみは自ら減量され、資源として使われるのではと思う。意識革命の取り組みが必要ではないか。

☆住民

先日開催された上原地域会議の中から、環境問題のごみ減量化と資源リサイクルの取り組みについて話させていただく。

私達はこれまで区長会、婦人会を中心に、「ごみは捨てればごみ、活かせば資源」を合言葉にごみの分別、資源回収に取り組んできた。

しかし、ごみステーションのごみ袋の中には、まだまだ空き缶や牛乳パック、雑誌等の混入が見受けられる。これらは心掛ければ十分資源として活かしていけるものである。ややもすると、家庭においてごみはお母さん、あるいはお婆ちゃんの仕事という風に片付け

られがちだが、ごみの問題は子どもから大人まで、若者も高齢者の方も、男性も女性もそれぞれが皆で取り組んでいかなければならない課題ではないかと思う。そのためには、住民一人ひとりが地球の資源の重要性を認識し、分別の仕方について正しく理解して、面倒がらずこれまで以上に分別の徹底に取り組んでいくことが大切。

また、地域においては、地域全体で取り組む姿勢が大切であり、例えば定例会や常会の際には少しでもごみの問題について話し合う時間を設け、具体的な例を挙げて話し合い、皆で理解し共に取り組むことが必要ではないかと上原地域会議で話し合った。

そこで行政に２点程度のお願いがある。

第１点は、分別の不徹底は、外国人の居住するアパートを抱える地区に多く見受けられる。せっかくご縁があつてこちらに住んでいらっしゃるの、お互い気持ち良く生活できるよう、ごみステーションの説明書きや分別の説明チラシを数ヶ国語で用意し、該当世帯へ配布してもらえないか。

もう１点は、住民と行政が一体となって取り組んでいくためにも、また、私達住民が正しく理解していく上でも実現していただきたいことであるが、宮沢清掃センターやエコポート、再生広場等の現況を説明してほしい。

最後に、スタート当初ほど行政からの呼び掛けがないように見受けられる。これは繰り返し啓蒙を続けることが大切と考えるがいかがか。

☆住民

道路、田、川への空き缶やたばこの吸殻、プラスチックの箸袋等のポイ捨て、犬の糞の放置、海岸付近への粗大ごみの投棄や捨て猫等が後を絶たない現状である。

これは言うまでもなく住民一人ひとりの意識の低さが原因だが、特に若者の車からのポイ捨てが多いとか。家庭での話し合い、取り組みの強化が大切だと思う。

地域全体の取り組みとして、地区で清掃美化の日を決定し住民総参加の一斉空き缶拾い運動等、美化運動を展開してはどうか。運動に参加し実践することによって、ポイ捨てに関する意識の高揚が期待できる。また、世帯交流の活動の展開により、地域住民がつながるという一石二鳥の効果も期待できる。

不法投棄一掃運動について行政の積極的な働きかけを期待する。

「美しい地域環境づくりは地域住民みんなの手で」を目標にあつたことを申し述べた。

☆住民

私は邑町地区だが、アイシン新和と高田石油の間にある、今は廃業されているタイヤ店のタイヤに水が溜まって、もうそろそろ寒くなるのではないと思うが、年中ボウフラが湧いて、あの辺りは蚊でどうにもならない。

どこの地区でも同じだが、段々と高齢化して私達の手には負えない、蚊取り線香くらいではどうにもならないという苦情で、例えば私達が民生委員の方と一緒に薬を散布したりしている。あそこを町で買収するなどの対策をとってもらえないか。

★住民環境課長

まず、ごみの分別の不徹底について。現在のごみの分別方法は平成7年から行っており、10年経過した。当初は各集落を回り、説明会を行ってきた。その後、分別が徹底されていない地区について、区長の依頼により出前講座を開講して分かりやすく説明してきている。

分別の仕方についても、今後説明の必要な地区があれば、出前講座等で住民の皆さんの理解と協力を得られるように周知徹底を図っていききたい。分別方法等について聞きたい、説明会を開いてほしいということがあれば区長を通じて申し出てほしい。

地区で管理されているごみステーションだが、地区の協力が絶対に不可欠であると思っている。地域の力、いわゆる自助・共助の中で分別徹底に努めていただければ大変ありがたい。ご協力をお願いしたい。

外国人に対するごみの出し方の説明やパンフレットの作成に関しては、新川広域圏で、英語、ポルトガル語、中国語、韓国語など3から4ヶ国語での対応を想定しながら検討している最中である。

しかしながら、それを待っていてもなかなかちが明かないので、町として何らかの方法を検討したいと思っている。なるべく早いうちに対応したい。

宮沢清掃センター等の状況を明らかにしてほしいとの話があったが、こちらについても今後、何らかの形で皆さんに情報を公開したいと思っているのでご理解をいただきたい。

道路へのポイ捨てについて、町では平成11年の3月にポイ捨て防止に関する条例を制定している。町、住民と業者が一体となって空き缶等のポイ捨てを防止し、清潔できれいなまちづくりをしようと進めているが、非常に残念なことに、相も変わらずポイ捨てや不法投棄が後を絶たない。条例の中では罰則規定もある。しかしながら、何よりも皆さん一人ひとりの環境美化意識が大切であり、これを全地区に広めていくよう町としてもPRに取り組んでいきたい。

そこで、ごみの不法投棄、ポイ捨ての対策として、町では今年初めて7月を清掃月間と定め、各地区で日を決めて、区長会、各種団体の協力の下で「クリーン入善7129作戦」という清掃活動を全地区で行った。およそ4,500名の住民の皆さんに参加をいただいた。実施日はバラバラであったけれど非常に良かったと思っている。来年以降については、入善町一斉に日を定めてこういった事業を行いたいと考えている。小学校、中学校あるいは一般の方すべてに参加していただきたいという計画を持っているので、ご協力いただければありがたい。

毎年実施しているものの中では、8月にそれぞれの地区を指定し、海岸の不法投棄一掃作戦がある。今年は古黒部地区で行った。こういったものを現に海岸でやっている。

それから9月には、これは都市計画道路中央通り線沿いであるが、空き缶一掃運動という清掃活動も行っている。今後もこういった事業を継続していきたいと思う。

また、これらの環境美化運動を通じて不法投棄、ポイ捨て防止の徹底と意識の高揚を図ってもらいたいと思っている。

タイヤの話であるが、地主の方に再三撤去してくれ、防除してくれという申し入れはしているが、初めのうちは良かったのが、最近はやっていただけない。県とも協議しながらどんなやり方をすれば良いか検討し、対応していきたい。

★企画財政課長

ごみ分別収集にリサイクルできる物が混ざっているということで、取扱の徹底が求められている。特に外国人の方は言葉、分別の仕方が未だ分からないからか、不徹底が多く見受けられる。ご指摘のごみステーションへの説明書きは早速取り組んでいきたい。

それから地域ぐるみでの不法投棄の一掃作戦は、今、担当課長が申したように平成 17 年度から取り組んでいるが、特に平成 18 年度は町民総ぐるみの不法投棄一掃大作戦の予算付けをし、町内総ぐるみでの取り組みを展開したいと思っているので、皆さん方にもぜひ協力をお願いしたい。

古タイヤの件であるが、持ち主の方がなかなか応じてくれないということがあるので、県と協議して 8 号バイパスの道路拡幅を含めた形で何か撤去の方法がないか検討していきたい。

☆住民

町とは何かというと、私は建物や土地ではないと思う。例えば、そこに住んでいる人や昔遊んだ遊び場とかいった人のことだと思う。このテーマ、人、町というのは自分の周りに住んでいる人ということで考えて、この地域環境の美化を進めることが目的ではなく、地域環境の美化を通して郷土を愛する心を育てるとか、人と人との繋がりの再確認とかそういうことを指しているのではと思う。確かに行政の人達にはハード面のこと、公共施設何とかしてくれとしか言えないのは分かるが。

原点に戻って、まちづくりということで若者を集めたいならば、若者に魅力のあるまちづくりというのはハード面では企業誘致等であると思う。しかし、人ということで考えると、若者がどんなものに魅力を感じるかということ、例えば自分が小さい時にキラキラしたものとか、何かワイワイやっているものに惹かれたということがあると思う。

私はしばらく他の場所に住んでいて、若い頃に音楽をやっていたので音楽をやりたいという気持ちもあって戻ってきた。私はできれば入善町が芸術とまではいなくても芸能の町にできないかとずっと前から思っている。結構自分の周りには、詩吟とか太鼓とかいろいろやっている人達がいる。また、絵を書いたり、物を作ったりする人もいる。そういったものを通してまちづくりができればいいと思う。

今年は体協役員を 1 年間させてもらっているが、スローガンとして「町民一人一スポーツ」と言っている。それプラス「町民一人一芸」とまでいかなくても、そのくらいのスローガンで、ソフト面で何かできれば良いと思う。

★助役

おっしゃるとおり、最近是人と人とのつながりが希薄になってきている。やはり人與人とのつながりをこれからは、大切にしていかなければならない。高齢化や災害などの町を取り巻く色々な課題においても人與人のつながり、コミュニティが大切になる。

ただ、町が人與人とのつながり、隣のことにについてはなかなか介入することができない。これから、どういう風に人與人とのつながりや近所との関りを活性化していけば良いのかお互い考え、良いアイディアがあれば教えていただきたい。

それと、色んな意味で人とのつながりをこれから大切にしていかなければならない。町としても催し物なども考えていかなければならない。

若者にとって魅力のあるまちづくり、これも以前から町の大きな行政課題である。ひとつは企業誘致、ひとつは内面的なもの、ソフト面の芸術的なものをどうするかということ、これから大いに皆さん方と語り合っていかなければならない。

答えにはならないが、非常に難しい。一方、行政として支えなければならぬ、大きな課題だと認識している。このことについてもぜひお互いに議論していきたい。

★教育長

現在、世の中が豊かになり、先ほどから話題になっている、一番大事な人の心、特にコミュニティというものがなくなりつつある。

国では、文化力で地域づくりをと、文化庁あたりが盛んに文化の振興を謳っている。何も文化というのは高級なことをするというのではなく、地元にある、盆踊りを始め、夜鍋談義も文化であろう。

例えば、現在町では中央公民館の利用団体は42団体くらいある。仲間でいろいろと学習なりサークルなり、人の交わりの場を積極的につくるといったことに対しては、場の提供等いろいろな支援を町として精一杯していかなければならないと思う。こういうことを意図的に発展させていきたいというところには、町としてそれが立派に育つまで補助をするという方法もあると思う。

また、いろいろな活動なり、人の交わりなり、そういう企画があれば使っていただくと同時に、そういう風なことを積極的にやりたいという方々の声を度々聞く。具体的に一つ一つを十分に把握してはいないが、特に若い人達にとっては大切なことだろうと思う。先ほどのご意見を参考にしながら考えていきたい。

☆住民

今、町全体のことをおっしゃったが、私はこの公民館を預かる立場として、そういう人達の話は、ぜひ聞かせてほしいと思う。

私もできるだけスポーツ、あるいは文化活動を支援していきたいと思うが、なにぶんスタッフも予算もあまり多くない。ただ、相談していただければ何かしらのきっかけが見つかるのではと思う。時々遊びに来てください。

☆住民

私が残念に思ったのは、入善町ではクラシックの方をよく呼んで来られるが、それ以外の方はあまり呼んでいただけないようだ。他のジャンルの音楽もやってほしい。音楽に限らずだが、皆さん色んなものを見たり聞いたりすれば興味が湧くこともあると思うし、こういう音楽もあると分かることもある。あまり偏らず、クラシック以外も呼んでいただければありがたい。

(2) その他

☆住民

J マートから上原保育所までの道路拡幅の話があるが、道路標識等しっかりつくってほしい。8号線の迂回道路となっており、朝は交通量も多く、とてもスピードを出している車も多い。

単なる拡幅だけで終わるのか、主要道路として拡幅するのか、その辺りを聞きたい。

★建設課長

今計画している道路については、町では幹線道路と位置づけているので、当然交通安全については十分配慮しながら整備していきたい。また、当然ながら公安委員会とも協議しなければならないが、打ち合わせをしながら整備していく。

今のところは幅員が約4m程度だが、幅員12mの歩道付き道路に整備する。だからといってスピードが出せるといったことではないが、それは地元の皆さんあるいは公安委員会と相談しながら対応したい。

☆住民

地区の分科会の中で、水の小路を蛍の小路にできないかという提案があった。

今年、墓ノ木自然公園で子どもと星の観察をしていたとき、公園に蛍がいた。子どもに蛍を見たことがあるか聞いてみたところ、30名中ほとんどいなかったの少しショックを受けた。また、今年の夏、魚津市の角川地区に行ってきたが蛍が乱舞していた。

このようなものを参考にして入善町の中心になる水の小路を蛍の小路にできないか。

★建設課長

町はこれから下水道を整備するというので、それに伴い川についても何らかの整備が必要だと考えている。

以前、蛍が生息できるかどうか県に水温を調査していただいたことがある。黒部川の水が入っていることで水温が非常に低いということから、蛍の幼虫の餌となるカワニナが育ちにくいのではないかという話をしていた。

ただ、環境やまちづくりの面から見ても良い話なので、また、調査してみたい。

☆住民

産業展示会館横にあった旧小学校跡地だが、昨年の懇談会で校舎の撤去をお願いしたところ、今年度で撤去していただいた。この部屋も和室も非常に明るくなり、見晴らしも良くなって喜んでいる。

ただ、基礎のコンクリートもすべて撤去したため跡が非常に深い溝状になっている。穴が開いているので埋めていただきたい。

また、この施設は下水道に繋いだトイレになっていない。こういう公共施設が町内に何ヶ所かあるが、ぜひ、下水道に繋いで洋式に改修してほしい。今すぐというのは予算の間

題あるが、難しいとは思いますが、ぜひ、お願いしたい。

★助役

旧小学校跡地の穴についてはすぐに取り掛かる。

トイレについては、他の地区公民館からも要望があるので、計画的に進めていきたい。
なるべく早く設置できるようにしたい。

☆住民

町道吉原国道線は、上青小学校への通学路となっているが、旧北陸農政局愛本寮の前で歩道の位置が変わり、小学生が通学の際、そこで道路を横断する。通学時間帯と通勤時間帯が重なり、交通量も多く、大変危険なので横断歩道をつけていただきたい。

★総務課長

今ほどの場所については、私共も現場を見て警察と相談している。歩道は公安委員会の許可が必要であるが、危険箇所については強く要望していかなければならない。再度、公安委員会警察に地元の皆さんと共に呼びかけていきたい。

☆住民

ショッピングセンターきららの里にビデオレンタル、ゲーム等を販売する店ができた。多くの小・中学生がたむろしているという意見が地区の方々から聞かれる。もちろん、家庭での指導、しつけも影響するが、上青小学校あるいは入善西中学校の2つの学校が付近にあるので立ち寄る者が多い。日中ならまだしも、午後9時頃がピークなので風紀的にあまり良くないという話があった。

少なくとも学校の管理者程度の方々にはこういう状況であることを把握してほしい。

★教育長

各学校で深夜の徘徊を始めとする子どもの行動には十分に指導していただいているが、本日、地元の方から直接聞かせていただいた具体的な指摘については、非常に貴重な意見である。今後、学校とも協力しながら指導にあたりたい。

☆住民

もし、その時間に子どもがその場にいるのがいけないと思うのであれば、大人であるその人がその場で注意すべきである。何でもかんでも学校ではない。

私は子どもがこの時間にいても良いと思う。ただ、もし10時、12時過ぎまで子どもがいるようであれば、私は注意する。

昔はそうだったと思う。自分が小さい頃、夜出歩くと大人が注意するのは当たり前だったので、既にそういうところが昔とは意識が変わってしまっている。

何でも学校ではなく、今は学校が親の意識改革を率先してすべきかと思う。

★教育長

今、学校では子どもの健全育成を地域の方、保護者の方と一緒にやってやろうという取り組みをしている。先ほどの学校という言葉の中にはそういう意味を込めて使った。

子どもはその家庭環境によって随分違うので、より一層家庭の協力が必要である。

☆住民

下水道の整備が進んでいるが、上水道の話は全く出てこない。

皆さん、今飲んでいる水はただのようなものだから、いつまでも飲めるものと思っているのかもしれない。以前にも質問したことがあるが、今町で公共上水道を作っても、この安い水のところでは効果はないということだった。

ある地区では、下水道工事の際、上水道の配管にも対応できるようにしているところもある。上原地区ではどこに配管が埋まっているのかさえ分からない。水圧が弱って終わったら道路も掘り返せないし、2、3件で井戸を掘る時代がまた来るのではないかと思う。上水道について考えているか。

★助役

入善町は水が豊富である。これはまた、入善町が全国的に脚光を浴びるというのは、ありがたいことに相当に地下水があるからであろう。これからいろいろ対処していかなければならない。将来は、ある地下水を涵養するような方法を我々考えていかなければならない。

ところで、上水道であるが、結論から申し上げますと公共上水道は今のところ考えていない。今までどおり、個々の中でそれぞれやっていたいでいるので利用継続していただきたい。もし、相談があれば、補助事業もあるのでぜひ活用していただきたい。

☆住民

上原1区の要望として、通学路に防犯灯の設置の要望書を出している。

県道新屋上野線は通学路として利用されているが、上野1区地内の町道神林高堀線との交差点南側の約300m区間に上原用水が横断し、とても暗くて危険である。残念ながら電柱はない。

去年、今年6月と要望したが、回答は電柱を立てて防犯灯設置をお願いしたいとのことで、電柱を地区で立てれば考えようと却下された。事故が起きてからでは遅いので、町で電柱を立てて暗い道路、危険な道路をなくしてほしい。

★総務課長

現在、北陸電力と電柱についての協議をしている。それが整えば地元と協議して設置したい。

———— 上原地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- スマート I C へのアクセス道路の整備を
- 地域コミュニティの活性化のために自主サークル等への支援を
- 杉沢の沢スギの早期復旧を
- 高齢者に対する緊急通報システムを携帯できるものにしてほしい
- まちづくり懇談会のように若者の意見が聞ける場の充実を
- ごみ分別外国語パンフレットの早期作成を
- 廃タイヤの早期撤収を
- 町民参加型の懇談会は良かった

地域課題・地域づくり

青木地区

日時：平成 17 年 11 月 21 日（月）

会場：働く婦人の家

(1) 行財政改革の現状と成果について

☆住民

町の単独行政で、国からの補助や交付金の削減による財政再建団体に陥る懸念はないか。
また、庁内組織再編による住民サービスへの影響はどうか。

★企画財政課長

単独町政を選択したからといって、国の補助金の削減や地方交付税のカットといったことは無い。合併しないからといって、国がペナルティを課すわけではない。

財政再建団体に陥ることはないのかということだが、財政再建団体というのは、民間企業に例えれば倒産と同じことである。そうすると国の管轄の元に財政再建が進められ、行政としては非常に恥ずべき姿である。富山県では過去 30 年間、そのような市町村はない。

入善町は全国でどのくらいのレベルに位置するかというと、平成 16 年度決算で 2443 町村の中で約 100 位で、財政的にも人口規模的にも大変優良な町である。

しかし、上位に位置しているからと安心はしていない。平成 17 年度から始まった行財政改革で 265 事業全ての見直しをかけ、予算等に反映させている。今後も、行革の手を緩めることなく推進し、住民サービスの低下を招かないことをモットーに持続可能な健全財政の運営に取り組んでいく。

★総務課長

今後の行財政改革であるが、組織・機構の見直しということで、縦割り行政の是正や町民ニーズに応えるスリムな組織づくりを念頭に実施している。

今年度においては、機構改革に伴い保健情報室と健康福祉課を統合し、福祉と健康部門の連携が密になった。少子・高齢化対策に係る事業をより効果的に展開できるものと考えている。

今後も、庁内組織の再編については、住民の視点に立ち、事業を効率的・効果的に進めたい。

(2) 少子化対策（子育て支援）について

☆住民

保育所の保育時間、保育料、児童手当、医療費、教育費、雇用の現状について町の取り組みはどうか。

★健康福祉課長

少子化対策については、町の重点施策として取り組んでいる。全国の出生率が 1.29 と大変な少子化社会であり、町においても約 1.4 と人口を維持していく上で非常に少なくなっている。

保育所においても、近年の多様な保育ニーズに対応して、低年齢児保育、早朝保育、夜間の延長保育、障害児保育等、順次サービスを拡大している。

保育時間は基本的に朝 7 時 30 分から夜 6 時までであるが、町内の 5 ヶ所では夜間 7 時までとなっている。また、労働形態の多様化から、休日保育や夜 7 時以降のいわゆる夜間保育についても徐々にニーズが高まってきており、今後の検討課題と認識している。新年度から、病後児保育という病気の回復期にある子どもの一時保育を開設したいと考えている。

保育料については、保育所への運営費の国庫補助金が廃止され一般財源化となり、非常に苦しい財政事情であるが、入善町の保育料の基準は、国の保育料基準を大幅に下回っている。国の基準を 100 とすると、入善町の保育料は約 67% である。

乳幼児医療費についても、今年度から富山県下では初めて、小学校 3 年生までの医療費全額助成を実施しているところである。

児童手当については国の制度であり、独自にはできないが、国でも順次拡大している。現在小学校 3 年生まで支給されているが、今後も延長される模様である。

町独自の制度としては、たくさん子どもを産んでいただきたいということで、第 3 子の誕生には 10 万円、第 4 子以降は 20 万円を年 5 回、計 100 万円のお祝い金を支給している。

町では昨年、子育て支援計画を策定しているが、これまでの基本的な考えはどちらかというと「働くお母さんのための保育サービスの充実」が中心であったが、それだけでは解決にならないということで、男性を含めた職場における働き方の見直し、地域における子育て支援、あるいは家庭での子育ての役割分担等、全体的な取り組みが大切と考える。また、非婚化・晩婚化の傾向も考えていかなければならない。

経済的負担の中では教育費が大きいと聞いているが、小・中・高までは様々な政策がなされているが、高学歴になると高くなるということがあるかと思う。

町行政としては、考えられる様々な子育て支援策に取り組んでいるが、特効薬はなかなか見つからない。ひとつひとつを拡充しながら子どもを産み・育てやすい環境づくりに取り組んでいきたいので、皆さんも提言等あれば聞かせていただきたい。

(3) 防犯対策（交通安全）について

☆住民

青木地区というのは、南北にかなり広い地形である。特に児童の通学路が長いということで安全策は大丈夫なのか。また、8 号バイパスが近々完成するが、安全面や環境のことで周囲に影響が出てくるのではないか。

★総務課長

平成 17 年度の重点施策として、安全・安心のまちづくりがある。地域を守るという見地から区長会、防犯組合、関係団体、PTA やボランティアが構成する防犯パトロール隊の設置を推進し、助成を行っている。これまで 5 団体が結成済みで、現在舟見地区が結成の準備中である。地域の防犯に大いに期待している。

青木地区においても、ぜひ防犯パトロール隊を結成していただき、子どもや高齢者の安全確保、特に交通安全や防犯に取り組んでいただきたい。

交通安全については、毎月1日と15日に街頭指導、あるいは全国の交通安全運動の中で指導員の皆さまや推進員の皆さまにご協力いただいている。今後ともよろしく願いたい。

★建設課長

8号バイパスについて、国土交通省では遅くとも平成18年度末までに完成させる計画で進めている。その中において町でもいくつか討論されている。

まず、上青小学校前の町道柴垣邑町線は立体交差アンダーとなり、歩車道も分離されている。

町道木根国道線は8号バイパスを挟んで南北それぞれ100m余りに3.5mの歩道の設置を計画、発注した。ただし、8号バイパスとの交差の問題で若干工事が遅れている。

県道青木吉原線について県に確認したところ、農免道路から町道柴垣邑町線の間は3mの歩道を設置する工事が発注されている。それぞれバイパス完成までには対応になるかと思う。

また、道路幅も現在の倍になるので、横断歩道も長くなることが考えられる。その地点については、国土交通省と協議していきたい。

(4) その他

☆住民

扇状地俳句会実行委員の一人として願いたい。今年、第8回目の扇状地俳句会を開くことができた。町の支援によるものと感謝している。年々投句者も増えており、今年ジュニアの部では約620名による1200余りの投句があった。一般の部も50名、100の投句があり、大変盛り上がっている。

大会の補助金は、年々削減される傾向にあり、財政難から来年か再来年には補助が打ち切られるとの厳しい意見も聞いている。町文化の振興に対する寛大な配慮をお願いしたい。

★教育長

ご意見の趣旨は十分理解させていただいた。

生涯学習に対する補助は、基本的にはそのグループや学習団体が自主的に広がり、深まっていくことを期待して実施している。団体が自らの力で運営していける段階になれば、補助を廃止し、自主運営をするというのが基本である。団体が活発な活動実績をつくることを期待してこれまで続けている。

扇状地俳句大会においては、話にもあったように非常に活発になっているが、子どもが多く投句しており、俳句に親しむ心や豊かな心を育てる、あるいは観察力を養う等、国語の力を養う点を考慮し、青少年の健全育成という観点からも補助を継続している。俳句会

に子どもを参加させていただいていることに感謝している。表彰も行っているので、非常に財政的に厳しい時期ではあるが、相談しながら継続できるように努めていきたい。

しかし、生涯学習に対する補助の基本的な考えは先に述べたとおりであるので、ご理解をいただきたい。

☆住民

財政再建団体という言葉が地元から出てきたことに私も驚いたが、そんな言葉が流布するほどに一般にも情報が流れている。言葉の意味するところは私も良く知らないが、町の財政状況については皆さん心配している。その結果合併につながっていく。町の財政がどうなっているか良く分からない。

予算書・決算書があるが、実物を見た人はほとんどいないのではないかな。全公民館に常備してほしい。また、それについての説明会や懇談会を丁寧に行ってほしい。

予算と決算については、広報で公開されているが、だからといって分かっているわけではない。時代は大きく、早く流れている。国は「小さな政府」といっているが、早い話が地方の補助金や交付金を削減するということを意味していると思っている。町民サービスをするということは同時にお金がかかるということで、そのお金はどのように配分され、使われているか町民は分かっているかならなければならないと思う。分からないからこそ無理難題も言うし、要望も強くなる。逆に分かっているれば少しは我慢するということもあるのでは。

広報では「町の台所」という表現があるが、「町の財布」としていただきたい。予算書や決算書はできれば個人への配布もしてほしい。

★企画財政課長

予算書や決算書は図書館等に配置している。情報公開により、閲覧したいということであれば町へ来ていただければいつでも閲覧している。これらは1冊3,000円ほどで、これを全世帯配布、あるいは全公民館へ配置するのは大変な負担になる。ぜひ閲覧等による利用をお願いしたい。

予算の中身の説明であるが、町民の皆さんの代表である議員の皆さんへ3月議会で詳しく説明し、質問に答えている。また、みらいテレビでも生中継している。より詳しく知りたい場合は担当課等を通して聞いていただきたい。

☆住民

図書館では禁帯出で持ち出しができない。議員の努力が足りないとも聞こえる。町民が十分認識することが大切だと思い、そのための予算は他を削ってでもつくってほしい。

財政を縮小せざるを得ない状況に追い込まれていることは少し比べれば分かる。財政は10年前に戻り、一番良かった平成12年頃に比べるとかなり落ち込んでいる。とりわけ人件費を削減しているとのことだが、比率からいうと伸びている。全体が縮小しているので人件費が伸びているが、他の市町村で助役や収入役を廃止したり、組織・機構についても学校教育課と生涯学習課、農政課と商工水産課が一緒になったりしても良いのでは。

特に義務的経費の比率が上がっているなので、人数だけでなく全体的な人件費を見直すべ

き。私は職員の給与が下がることは良いこととは思わず、むしろやる気のある人は上げて良いと思うが、やはり削減できるところは削減してほしい。

☆住民

広報で 500 万円以上の事業の発注状況を公開しているが、この 2 ヶ月の落札率を見るとおよそ 97%である。96%以上というのは、談合しているのではないかと疑ってしまう。町はどう考えているか。

★企画財政課長

入札における落札率が高いのではないかとのことであるが、入善町は公明で公正な入札を原則としている。

そのために、町では県下に先駆けて業者に対して予定価格を公表している。予定価格については、標準単価、あるいは無駄のない経費を算出して積算しているので、それに対して落札率が高すぎることを懸念するのであれば予定価格を公表する意味がない。

この範囲内で入札、落札が行われれば、工事費、工事に係る経費、事業費というのは十分運営できるということを前提に予定価格を積算、公表している。予定価格を公表することで、公明で公正な入札制度を今後も続けていきたい。

☆住民

学校教育の問題が取り沙汰されているが、教員の養成であるとか講習について町教育委員会ではどのようにしているのか。

★教育長

確かに新聞紙上等でも、教員の資質向上のために研修をしなければならないというようなことが度々報じられている。また、大きな課題にもなっている。

それらは、先生の力が落ちていることよりも、社会環境や家庭環境などの多様化による生活様式や価値観の複雑化によるものである。

これまでは、多少の違いはあっても一律に同じ教育を受ければ良いという考えであったが、今日では、様々な家庭の中で様々な特性をもった子どもを一人ひとり大事に育てていかなければならない。次代を担う大事な子どもであるからこそ、一人ひとりに対応するための新しい知識が必要である。

具体的にいうと、椅子に座らず、机に座ってきちんと人の話を聞けない子がいる。こういった子どもは、ただしつけが悪いということではなく、一種の心の病気と捉え、健全な育成のため心の病気などについても勉強しなければならない。いろいろな子どもを健やかに育てるために、今まで以上に学ばねばならないということで研修が重視されている。

先生方は研修にも時間が取られるが、毎日一生懸命である。どうか先生方に力がないためではないということをご理解いただきたい。

また、町としても、町の子どもの状態を見ながらもっと勉強していただきたいということについては独自に研修を行っている。

☆住民

県道新屋上野線の一宿交差点の信号機から上に柳の木が植えてあるが、近辺の水田には相当な迷惑がかかっているので伐採してほしい。

★建設課長

県道であるため、街路樹についても県が管理している。ご意見をいただいたことは県に報告したい。

☆住民

企業の進出等により、私の予想では町内にも外国人が 500 人位就業していると思う。
町は増加する外国人についてどの程度把握し、どのような対策を考えているのか。

★助役

企業進出により町内におられる外国人は 400 人位と把握している。今のところ大きな問題は発生していないが、町としても気にしているところである。情報があり次第、担当課の商工水産・深層水課に知らせてほしいとお願いしている。

ただ、あまり大きく取り上げると社会問題になる可能性もあるので、もう少し状況を把握し、判断していきたい。

企業の方にも事情があるかと思うので、町としても注意を払っていきたい。

☆住民

特に、交通安全対策についてしっかり指導してほしい。外国人のうち約 3 分の 1 は車に乗っているはず。任意保険にもほとんど入っていないはずである。そういう人と事故になった時、どうなるか心配である。

★総務課長

その点については企業等にも申し入れたい。いずれにしても、外国人の交通安全指導については企業に指導をお願いしたいと考えている。

☆住民

I S O を取得したというが、役場の体質を変えるという意味で I S O には共通項目があり、その実施・運用に係る責任や権限、職員の教育などについての項目があるはずである。それらについては明確にされているのか。

★総務課長

I S O の共通項目に基づき指導、監査を行い、環境 I S O の専門項目により、町では特に環境にやさしいまちづくり、環境に配慮した事務事業を推進している。今後も研修等により職員の意識を高めていきたい。

☆住民

少子化対策について、特効薬がないとのことだが、それだけ難しい課題であることは理解できるが、対策はどのような経過を経て立てているのか。

町独自の対策が必要だろうと思う。少子化問題の対象となる若い方々に、アンケートや調査を継続的に行い、結果資料を研究し対策を立ててはどうか。

★健康福祉課長

昨年度、次世代育成支援行動計画の町版を作るために検討委員会を組織し、取り組んできた。その中で、いわゆる子育て世代へアンケートを行い、その結果を参考にしながら検討しているところである。

入善町独自の施策も入ってはいるが、全国規模においても、1つや2つのアイディアだけでは解決に至らない問題であることはご理解いただけると思う。単に経済的支援や制度の拡充だけではなく、現在の風潮、子育ては大変であるという考え方がなかなか解消されないことが問題ではないかと思う。意見や提案があれば、ぜひお聞かせいただきたい。

———— 青木地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 自主防災会が結成でき、良かった
- ISOへのさらなる取り組み強化を
- 少子化対策として、結婚しない若者への対策が必要である
- 保育料の無料化を
- 県道魚津生地入善線の交通安全対策を
- 地方分権社会に対応した行政能力の強化を

地域課題・地域づくり

飯野地区

日時：平成 17 年 11 月 20 日（日）

会場：農村環境改善センター

(1) 入善西部地区企業誘致等の商工業振興策について

☆住民

飯野地区における商業都市の開発が計画されている。8号線の日野自動車から平曾川国道線が下り、8号線バイパスと交差する地域の周辺に、平成13年頃、今滑川で優秀な成績を収めている「プラント3」の進出の話が、その後「ムサシ」の噂もあり、現在にいたっては「イオン」出店が取り沙汰されている。

地権者達がこれからの窓口の一本化に地権者協議会を立ち上げ、その都度意見交換をしながら邁進している。協議会の最大の目標は入善西部地区の活性化と町の発展で、これをスローガンに掲げて頑張っている。このような素晴らしい土地である。いかなる産業にも適していると信じている。入善町商工業の振興対策地として、この土地を大いに活用するよう町にお願いするものである。

★商工水産・深層水課長

町では飯野地区の8号バイパスと平曾川国道線一帯を入善西部地区と位置付けている。ご存知のようにこの一帯は町内でも有数の優良農用地であるが、近年の道路事情など社会環境の変化によりその利用形態の見直しを余儀なくされている。

町ではこの春に、入善西部地区を商工業用地に適した候補地としてゾーニングし、企業等の誘致活動を展開している。

元気なまちづくりを推進するためには交流人口の拡大や雇用の場の確保を図ることが必要であり、その有効な手段として商工業の誘致が必要であると考えている。そのために町の最高の立地条件を示していくことが大切であり、町の特性である「人、水、土」に加え、災害に強い町入善を前面に出しながら、たくさんの特産物等も紹介しながら積極的な誘致活動を展開していきたい。

しかし、この西部地区は、先にも述べたように町内有数の優良農用地である。従って農地転用や農振除外、あるいは開発行為といった法的な規制も受ける。県などとも連携を図りながら誘致活動を進めなければならない。

大型店の出店に関して、特にイオンについては、昨年この場で出店計画を述べた以降目新しい情報は入っていない。しかし、出店の計画がある以上、町内商店や中心市街地に及ぼす影響や出店のメリット・デメリット等も検討し、総合的な判断をしていかなければならないと考える。

また、先般から新聞等で知事の発言が報道されている。大型ショッピングセンター出店に都市計画法や大規模小売店舗立地法、中心市街地活性化法といったいわゆるまちづくり三法の見直しをする動きがある。規制の強化や知事の同意を義務付けることも検討されており、国、県の動向も見極めていかなければならないので、ご理解いただきたい。

☆住民

企業誘致等でもう少し突っ込んだ具体的な方法というか、地域の人がこんなことをするとやり易い等といったことがあれば話してほしい。

★企画財政課長

今、半導体関係企業や液晶関係企業というのは土地の面積から言うと1ロット30万㎡を求めてくる。県内でそれだけの土地を提供できるのは、砺波の方にも少しあるとは聞いているが、入善町くらいだと思う。入善町でも提供できるのは飯野地区だけで、30万㎡を3ヶ所、150万㎡を1ヶ所の提供が可能と見ている。これは日本全国を見回してみてもそうは無い。

富山県と入善町はタイアップをし、企業誘致に取り組んでいる。ちょうど企業は地方へ目を向けているところで、富山県へも熱い視線が向けられているのは事実である。そうなった場合は当然飯野地区を一番に指名せざるを得ない。同時に入善町には豊富な水という宝がある。加えて広大な土地、強い地盤、この3要素が企業の求めるものである。

このようなことから、飯野地区は優良農地であると同時に企業立地の最適地でもあると思っている。

☆住民

入善町の黒部川扇状地は地質構造的にも非常に安定しているし、地下水量は世界的にも誇れると思う。その中でも飯野地区は特に恵まれた環境にある。

このことを前提にして、製造業誘致の努力を重ねていただきたい。今年や来年といった短期的スパンでなく、長期的に見て安定している立派な企業を入善町の活性化のために、若者を町外へ出さないためにも、誘致することが基本的なスタンスだと思う。その点を考慮して町政に取り組んでいただきたい。

☆住民

ほ場整備が終わり、その後土地改良総合整備事業が実施され、これも終わったばかり。農振除外は実際、非常に難しいと思っている。しかし、飯野地区を将来の企業誘致の場所として適正だという町の方が見えたので非常にありがたい。

しかし、製造業の企業であれば町は諸手を挙げて誘致し、商業施設なら難しいという方針であれば、それはそれではっきりと示してほしい。イオンの方も町に具体的な働きかけをしていないということであれば、イオンは本当に出店する気があるのか。地区の人は同意しているといいながら、企業自体が進出の意思があるのか疑わしい。町にアプローチがないというのであれば、別の方法を考えてはどうか。

★企画財政課長

大型ショッピングセンターのイオンは、今年春頃に一度町においでになった。その時に入善町に出店の意思があるのか確認したところ、あるとのことだった。ただし、その後音沙汰はなく現在に至る。地元議員より11月21日に来庁されると聞いているので、再度基本的な考え方等を確認したい。

(2) 海洋深層水工業団地の今後の企業進出の見通し及び空地の環境整備等について

☆住民

昨年12月、深層水を利用した体験交流施設について、しばらく事業を見送ると報道された。そのときは台風の関係やスマートＩＣ等で予算的にも厳しい状況であったかと思う。その様な理由での見送りかと思うが、約1年を経過し、その間予算的なものも含めて町として再検討はされたのか。今後の体験交流施設についての予定を聞きたい。

また、海洋深層水企業団地の一角に10月の末に製塩会社が1社開業した。残りの2区画について深層水を利用した企業進出の話はあるのか。

★商工水産・深層水課長

体験交流施設は、昨年12月に建設場所や施設の整備内容、経営や運営体制、採算性等色々な課題・問題があることから事業の先送りを決定したことはご存知のとおりである。

町民の健康増進を図るための施設として、深層水を利用した施設整備の必要性を十分に考えており、問題の解決策を検討しているところである。もう一度、町民の皆さんの理解を得る施設の在り方について検討していきたいので、しばらく時間をいただきたい。

企業団地について、町で整備した深層水企業団地は、用地買収や用地造成工事、配水管工事等について地権者や地元の皆さんに大変ご協力いただき、今年5月に一通りの工事が終了した。

若干遅れ気味だった第1号企業の「入善海洋深層水製塩株式会社」が、6月から工場の建設を始め、10月に完成した。待望の塩とにがりの生産・販売が始まり、先日、新聞紙上でも報道されたところである。

地元からは、既に袋詰め担当の方1名が採用されているが、まだ事業が軌道に乗っていないとのことで、今後、順調に事業が展開されれば、さらに地元からの採用が増えるものと期待している。

塩は焼き塩と絹塩の2種類があり、味の方も甘辛タイプで大変評判が良く、東京でも企業立地セミナーの場で、深層水を使った塩としてPRし、好評であった。今後、家庭用、業務用など6種類程度の商品を作っていくとのことである。商工会や飲食店の皆さんにも使っていただきたいと営業活動をしているようだが、工場へ行かれば簡単に手に入るのので地元の皆さんも大いに利用していただくようお願いしたい。

なお、企業団地における今後の企業誘致については、富山県が行う企業立地セミナーや全国的に展開している深層水フォーラム、各種イベントや陳情の際に深層水企業団地の概要や、優遇制度、交通アクセスや立地区分等の情報を発信している。製塩会社もできたので、魚介類やその他の食品加工する分野の会社にも進出を働きかけているが、残念ながら理解をいただくには至っていない。しかし、まだ1万㎡の土地があり、今後も精力的に企業訪問をし、進出につなげていきたいと思っているのでご理解いただきたい。

☆住民

滑川の深層水は独自の取り組みでPRしており、よく新聞にも載っている。入善の深層

水に関してはPRが足りないのではないか。独自性を出した積極的なPRが必要と思うが意見を聞きたい。

★商工水産・深層水課長

滑川に負けずにPRに努めているところであるが、深層水を汲み上げてから既に4年が経過し、年々、利用者数や料金収入が減ってきている。

皆さんにも大いに使っていただきたく、7月の深層水ふれあいデーなどイベントの開催を含めてPRしているところである。

いろいろな利用法がある中でアサヒビールの発泡酒に深層水が入っており、それも深層水の大きなPR効果になると思う。現在、全国で16本の深層水が掘られている中の1本というだけでも効果はあると考える。町民の皆さんを基本として利用していただき、それにより町の深層水をPRしていきたい。他にもアイデアがあれば教えていただきたい。

☆住民

深層水体験交流施設は財政的なこともあり再検討になった。区長会でも話題になったが、このまま消滅するのではないかという懸念がある。近い将来に体験交流施設はできるのかどうか回答してほしい。

★町長

以前から言っているとおり、あくまでも一時中止である。この施設はまちづくりのために絶対に必要だと思っている。企業誘致やスマートICの社会実験など緊急を要する歳出が必要となり、今、施設を無理に整備するより、もう少し色々な角度から計画を見直しても良いのではないか、採算性においてもいかにマイナス面を少なくするかということについて、今一度考えてみても良いと思う。将来的には町民の皆さんの健康管理にぜひ深層水を利用していきたいので、もうしばらくお待ちいただきたい。

(3) 空き家の防犯などの対策について

☆住民

芦崎地区では空き家が約30戸と非常に増えている。

昨年は、この空き家を高齢者が集まる憩いの家、あるいは富山型ディサービスに利用してはどうかと質問したが、なかなか難しいということだった。

空き家は地域ぐるみで考えていかなければならない。特に不審者も利用しやすく、また、防災・防犯という立場から地域はどうしていけば良いのか、町からアドバイスがあればいただきたい。

★総務課長

平成17年度のまちづくりの重点施策として、「安全、安心のまちづくり」を進める一貫

として防災、防犯や交通安全を含め対策を考えている。今年は、地域の区長会、防犯組合、関係団体、ボランティア、PTA等が一体となって凶悪な犯罪を抑止する観点から、地域防犯パトロール隊に対し支援を行っている。当初は3団体、3か年の予定だったが、防犯意識の高まりにより今年度中に7地区6団体が結成の予定である。飯野地区でも検討いただきたい。

ご指摘の空き家の防犯対策については、地域ぐるみで防犯パトロールを行うような活動をお願いしたい。地域のことは地域で守るという共助で進めていただきたい。

いずれにしても、犯罪の要因となりやすい空き家や公民館、駅舎、海岸等の巡回パトロールの強化について入善警察署、飯野駐在所へ要望したい。

☆住民

空き家になってからかなりの年数を経過した家は、瓦が落ちてきたり、トタンが舞ったりと大変危険である。台風などの災害により、いつか事故が起こると心配している。農家の一軒家であれば、危険性も少ないだろうが、芦崎地区のような密集地域では非常に危険な状態の家もある。所有者が不在の家もあり、そういった建物に対して地区だけではなかなか対応ができない。強制的に壊すわけにはいかないが、町と協働で働きかけていく良い方法はないものか。

★助役

あくまで個人の権利というものがある。以前、中心市街地において同様の問題があり、行政的にはなかなか介入しにくく苦勞していた。この件は、たまたま道路の拡幅により解決したが、空き家の取り壊しについては大変難しい問題である。

密集地において危険な空き家が増加しているということは聞いているが、なかなか対応は困難であり、今後もどのような対策をとれば良いのか検討していきたい。

☆住民

個人の権利で対応が困難であるとのことだが、だからといって放置して良い問題ではない。非常に身近な問題である。

空き家の名簿を作りランク付けをして、倒壊の危険のあるものは具体的な策を進めるなどしてほしい。去年と同じ回答では納得できない。行政も努力しているかもしれないが、隣近所だけでは対応できず、条例を作るなどできないものか。

★総務課長

町へも空き家に対する苦情が寄せられている。住民環境課で対応に当たっているが、持ち主が分かるものについては文書をもって指導したいと考えている。

(4) その他

☆住民

平曽川国道線の改良工事が行われているが、J R手前で右折すると県道芦崎小摺戸線との取り付けがある。そこで左折するとすぐに踏切があり、大型車が1台止まると他の車は曲がれないような状況である。通学中の児童や生徒で混雑する場所でもあり、過去に中学生が道路から落ちたこともある。安全対策として踏切の拡幅をお願いしたい。

★建設課長

下飯野のJ R踏切拡幅について、近くの海洋深層水企業団地に工場が増えると交通量が増すので、県道に取り付けはしたもの、今後の安全対策が必要と考えている。県も踏切改良の計画をしており、J Rと協議しているとのことである。ただ、J Rについては県内でも年に1ヶ所程度しか拡幅等の対応ができないということで、なかなか目途が付いていない。町としても、県やJ Rに早期に対応してもらえるよう働きかけていきたい。

☆住民

いつかは合併しなければならないだろうが、いつまで単独町政を維持できるか見通しはあるのか。

★町長

いつまでとは答えにくいですが、町では合併協議の際、20年後くらいまでの町の財政的なシミュレーションをしながら合併の話を進めていた。国からの地方交付税等は今までどおりには入ってこないことが予想される。そのために行財政改革を推進しながら町政を行っている。いずれ気運が盛り上がる時が来れば、その時は対等互恵の精神で、皆さんや議会にも説明しながら合併を推進したい。

今のところそのような合併の話は出ていないので、企業誘致の推進や人件費の削減等、歳入・歳出両面から厳しい財政状況の中で持続可能な財政運営を行うことができる体質づくりのために、町でできることを一生懸命行っていきたい。

☆住民

児童・生徒の防犯対策や交通安全指導、子どもの減少による学校の利用などの取り組みについて聞かせてほしい。

★教育長

児童・生徒に対する安全・安心が教育の中でも第一であると考え、昨年より全国のモデル事業として「学校ぐるみの安全推進事業」を立ち上げた。町内の全学校及び警察をはじめとする関係機関とどのように児童・生徒の安全を守れば良いか国の補助を受けながら事業を推進している。

その結果、地域の方々のご理解をいただき、パトロール隊を結成していただいている。

今年度中に各小学校下に設置できればありがたいと地域の方をお願いしている。

学校の日々の教育について、今、いろいろと学校の改革ということが叫ばれているが、先生方も一生懸命取り組んでいる。しかしながら、社会環境や家庭環境の多様化により、子どもの育つ生活様式や価値観が複雑になっている。そこで、教員には、これまで以上にいろいろな子どもに対応することのできる指導力が問われている。新聞等で教員の力が無いために資質向上の研修が必要と言われているが、いろいろな子どもに対応するための研修であると皆さんのご理解をいただきたい。教員は子ども一人ひとりに立派に成長してほしいと願い、取り組んでいる。

また、入善町を愛する子どもを育てていかなければならない。そのためには、やはり地域の人々との日頃の関わりの中で豊かな心を育てることが必要であり、それがふるさとを愛する心になると思う。地域の積極的な児童・生徒に対する教育をお願いしたい。

———— 飯野地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 商業施設の誘致強化を
- 深層水でのウニやヒラメの養殖を検討してほしい
- 空き家マップの作成を
- 若者の意見の町政への反映を
- 学校給食のセンター化の推進を
- 懇談会会場が狭いため会場の再検討を
- 自分や地域で何ができるか考えることができて良かった

地域課題・地域づくり

小摺戸地区

日時：平成 17 年 11 月 9 日（水）

会場：小摺戸地区公民館

(1) 町道小摺戸中坪線の拡幅工事について

☆住民

町道小摺戸中坪線については、平成 14 年に小摺戸地区区長会が議会に陳情し、採択されている。その後、主要地方道黒部朝日公園線の整備等により、整備計画も変わってきたのかもしれないが、町の道路整備基準の高順位には入らないということで棚上げになっているのと思う。

この道路は、普段は交通量が少ないが、小摺戸 3 区の一部、4 区から 9 区の黒東小学校の児童はほとんどが通学路として利用している。また、児童の自転車検定用にも利用されているが、軽自動車ですれ違いできない程度の幅員しかない。町としては整備基準の下位に位置するものであろうが、せめて路肩の整備だけでもしてほしい。

★建設課長

町道小摺戸中坪線については、平成 14 年に関係者の同意が得られたということで議会に陳情、採択されている。その間、町では継続事業箇所の進捗状況や緊急を要する整備、予算等を考慮した上で、事業の実施を待っていただいていた。

平成 18 年度に再度、関係者の同意を確認させていただき、調査や測量設計を行い、計画的に整備を進めていきたい。

☆住民

冬になると軽自動車と子どものすれ違いもできないほど、非常に狭い道路である。

小摺戸地区の 3 分の 2 くらいの児童が通学路として利用する道路なので、平成 18 年度中に何とか事業の目途をつけてほしい。

★建設課長

平成 18 年度中に調査、測量設計までを行い、その設計をもって地元の方との協議に入りたい。一度に工事を進めることは無理なので、どこから工事に入るかなど、十分に協議して決定したい。

(2) 出し平ダムの排砂について

☆住民

例年ダムの排砂は 6 月末から 7 月中旬であるが、農業を営んでいる者にとっては、この時期は施肥や農薬散布の時期に当たり、長期に渡って断水すると障りがあるので時期に関西電力等と調整し、変えていただくことはできないか。

また、今年は 1 週間ほど断水したように思うが、万が一このような時に火災が発生した場合のはどのように対応するのか。

★建設課長

ダムの排砂については平成6年から本格的に行い、平成12年を除き毎年行われている。

この件については、下流域の地域や関係者に影響のないようにと関係者や実施機関等と協議しながら実施しているところであり、現在は6月から8月末までの間で排砂基準流入量を上回る最初の洪水が発生した場合に実施することになっている。

排砂だけならば、長くても2日間で終了するが、平成16、17年は実施中あるいはその後集中豪雨があり、下流域の洪水を防ぐための一時排砂及び通砂の中断のために、ゲートを閉鎖するという事で理解いただいている。平成16年は7月16日から20日、今年は6月27日から7月5日とゲートの閉鎖期間が長時間になり、関係者への影響が懸念されたところである。

特に平成16年は、水の必要な施肥の時期に重なったということで、農家の皆さんやJAの方々から苦情があり、国土交通省及び関西電力の方に今年の実施期間の検討について申し入れをしていたところであり、取水停止時間を少しでも短縮するよう検討されていた。

従来は、目視で濁り具合を判断し、取水を再開していたが、今年は汚濁度を数値化して判断するよう検討された。平成13年度以降の排砂時の取水停止時間と比較すると、平均8時間程度、短縮されている。目視の場合、夜は判断できないため翌日の朝以降になるので、夜中に洪水が発生した場合は、さらに12時間から18時間程度、短縮できるのではとのことである。

いずれにしても、今後とも実施期間には十分調査研究を重ね、より皆さんへの影響の少ない排砂が実施されるよう実施機関に要望していく。

平成16年のように断水期間が長くなると、火災についても心配され、皆さんには火の元に十分注意していただきたいが、万が一のために、国土交通省からタンク車を町へ配置し、初期対応できるよう努めている。

☆住民

出し平ダムができてから黒部川に魚がいなくなったのではないかな。町はおそらく国土交通省や関西電力の調査資料を持っていると思う。

黒部川は将来どうなるのか。環境問題が盛んに取り沙汰されているが、黒部川的环境について町の考えを聞きたい。

★建設課長

難しい質問だが、いずれにしても黒部川の自然は私達が守っていかなければならない。

排砂が行われるが、そのときには自然調査等を実施し、専門の先生方とも十分相談しながら黒部川の自然や美しい川を守っていきたい。

☆住民

排砂というところから見ても悪いイメージがあるが、ひとつの提案として、これを田の客土として利用すれば良いのではないかな。町の方で研究してもらえないかな。

★建設課長

以前、田に土砂が入ったことがあり、その時は、田の土が固まってしまったと聞いている。それ以降は、あまり土砂をいれないように取水の時間を調整している。このことについては調査しながら、連絡会や協議会へ提案をしていきたい。

★農政課長

以前に排砂の砂が田に入って土が固くなったという指摘があった。当時と今と土砂の質が違うかもしれないが、あまり田には良くないものなのではと考えている。それは、排水路の底に砂がこびり付いているが、その砂は非常に固いものである。非常に細かい砂なので田にはあまり適さないものではないかと考えている。

(3) 入善米のPRを兼ねたまちづくりについて

☆住民

入善米は、新潟のコシヒカリに次いで2番目の単価で取引されているということは、皆さんご存知だと思う。入善の誇る「つぶぞろい」については皆さんがおいしい米と自負していると思う。JAが一本化して、皆さんも良い米を作っているが、作っているだけでは駄目で、入善米をもっとPRする必要があるのではないかな。

そこで提案だが、構造改革特区を利用してどぶろくを作り、どぶろくをまちづくりの材料にできないだろうか。たくさんある休耕田を利用し、自分達の手でどぶろくを作り、まちづくりの起爆剤とすれば良いと思う。町内だけではなく、町外からも人を呼び寄せる手段になるのではないかなと思う。

同時に、高齢化率が25%超という町の現状を踏まえて、これから団塊の世代が定年を迎えた時に、高齢者の健康対策としても「どぶろく特区」を立ち上げて、どぶろく祭り等のイベントを開催したり、また、自慢の農産物などを販売したりすれば良いのではないかな。

イベントや農産物の販売ができるような場合は、町やJAに協力していただき、提供してもらえれば良いのではないかな。

★農政課長

思いもつかない「どぶろく特区」という話が出たが、全国でも30数ヶ所の「どぶろく特区」があると聞いている。

ただ、構造改革特区はどちらかというと中山間地が多い。特区による規制緩和としては耕作放棄地を利用した新規企業の参入や農家の基準面積の引き下げ、あるいは都市近郊部ではNPO法人による市民農園の運営等が主なものである。

入善町においては、耕作放棄地を利用した企業の参入というのは難しく、農家の基準面積を引き下げることもし難しいと思う。また、担い手が耕作している入善町にはこのような特区は適さないように思う。

特区ではいろいろな事ができるので、今後、どぶろく特区だけでなく様々な可能性を考

えていかなければならないかもしれない。特区に関わらず、意見や提案があれば聞かせていただきたい。

☆住民

町は国や県からの転作や減反指示をそのままＪＡにおろすばかりで、行政は表に出てこない。行政とＪＡが一体となって動かないのはなぜか。ＪＡと行政が一体にならない限りブランドは作れないと思う。

また、せっかく新川広域圏でいろいろな事を連携して実施しているのだから、このような特産品のブランド化についても、広域で取り組むことができないものだろうか。

現在、県内で少し名前が売れているのは、なのはな農協の八町米である。入善米についてもブランド米を作ってほしい。

★農政課長

確かに、町とＪＡが一緒にならないとブランド米は難しいと思う。ただ１点、入善町で収穫されている米は約１万５千ｔで、独自販売するには数量が中途半端であり、大手の問屋が相手にしてくれないという実情がある。ＪＡ合併に伴い取扱量が増加するので、今後は独自販売について考える必要がある。独自販売ができれば、ある程度入善米のブランド化というものも図れると考えている。

農業問題において、ＪＡが主体で町があまり表に出てこないという指摘については、事実である。農業という専門分野においては、町の職員では対応しきれないところもあり、専門的な分野については、やはりＪＡに主体となってもらっている。町は国・県の制度の中で指導等を行っているので、あまり表面には出てこない。

☆住民

ＪＡが良い米を作っているのであるから、町でもっとＰＲに取り組んでいけばよいと思う。スマートＩＣを拠点としてＪＡと町の協働のもとに深層水等とともに、町の特産品を販売すればもっと町のＰＲにつながるのではないか。

☆住民

農政について町があまり顔を出していないとのことだが、実際は町とＪＡは五分五分でスクラムを組んでいるということを理解してもらいたい。

ただ、皆さんには農業と言えばＪＡの仕事の方がより身近に見えるため、町が表に出てこないように見えるのではないかと思う。実際には一心同体で行っている。

入善町は県内でも良質の米の産地である。今年もコシヒカリの一等米比率が９３％で、県内でもトップクラスである。

ＪＡは富山県一の良質米の産地にするため、コシヒカリの一等米比率を９５％以上にしたなどの目標を持っている。昨年も今年もその目標には若干届かなかった。どうすれば良いか、町の方も含めて議論している。

今年、ＪＡでは二等米を出した農家を個別にヒアリングさせてもらった。そして、どこ

に問題があったのか、一つひとつ原因を整理し、来年の一等米比率向上につなげていきたいと考えている。2年連続、あるいは3年連続で二等米を出した農家については、特に強く指導をしていきたい。そうしなければ、一等米比率95%以上にはならないと考えている。

さらに、米のPRを兼ねたまちづくりには大賛成で、ぜひやっていかなければならない。良い米ができればそれを土台に、米だけでなく町ごと全国に発信していきたい。

いかにしてブランド米を作っていくべきか、ということであるが、入善米の中でも山手の米が良いと言われており、県外のお客さんにも山手の米が欲しいと言われる。その中で現在、大きくて粒のそろったものをある程度まとめて売れば、高い価格設定で売ることができるのではないかと考えている。今まで一緒に売っていたものが別々に分けられる上、売れなかった場合の農家の方々に係る負担を考えると、皆さんの協力が得られるかという問題がある。しかし、ブランド化に向けた、ひとつの考え方として実現に向かいたい。

特産品のブランド化については、JAと町だけでなく農家の方々の協力も必要である。そして将来に夢のあるような米づくり、特産品づくりができるよう努めたい。今のところ、味噌づくりが定着してきており、もう少し拡大するとともに、味噌に続く特産品を作りたいと考えている。JAでは桃の生産に対して助成しているが、これからもいろいろなものに挑戦していきたい。その中で1割でも2割でも成功し、特産品になれば良いという気持ちで取り組んでいきたい。

(4) その他

☆住民

平成15年12月、当時の青木地区区長会と小摺戸地区区長会等から町道上野福島線の拡幅の請願書を提出している。

周辺の工場や魚津・黒部への通勤路や入善西中学校への通学路になっており、過去に接触事故や車の転落事故等が多発している。2年前から盛んに陳情している。

最近、青木地区で約200mが採択されたとの話を聞いたが、それは事実なのか。また、工事が実施されるのかどうか。さらに道路拡幅の計画はどうなっているのか。

★建設課長

今年、測量に入っており、この後、用地買収を行い、工事を進めることになっている。請願をいただいていたのは県道小摺戸芦崎線の東の区間で、西側は用地の関係で調整がついていないので、今後、関係者の同意があれば進めたいが、今のところは考えていない。

☆住民

工事はいつ頃始まるのか。

★建設課長

先ほど言ったとおり測量の後用地買収に入るので、平成18年度には用地買収、少しでも

工事に入りたい。

☆住民

今のゆとり教育をどう思っているか。また、子どものしつけについていろいろな問題が起きているが、責任の所在はどこにあるか。

★教育長

非常に難しい問題である。皆さん教育についていろいろな意見を持っておられるだろうが、どれも真実であると思う。それは自分の経験に基づいているからである。ただ、教育に携わる者としては、しつけ等の問題について、人の基本的な行動は、6歳頃までに家庭や地域できちんと理解させることが大切ではないかと思っている。

ゆとり教育は、ゆとりが大事か、基礎学力が大事かという相対的な見方をされる。しかし教育においては、ゆとりと基礎学力はどちらも大事であり、相対的に見るものではない。両者のバランスは地域の特性や子ども一人ひとりの特性で考えていきたい。各学校においてもその点は真剣に考えているので、地域の皆さんの知恵と協力をお願いしたい。

☆住民

今年度は子育てサロンを事業化した。しかし、実施するに当たって対象者を探そうとすると、個人情報保護法が大きな壁になって、対象となる子どもの名簿などもいただけないでいる。どの地域にどんな子どもがいるか、担当者が毎月広報を見て探していかなければならない状況である。個人情報の保護は分かるが、事業の趣旨を理解した上で、担当者だけでも取扱注意の情報として教えていただければ、今後の事業も活発に行われるのではないか。

★健康福祉課長

個人情報保護法が適用されてから、私共も福祉において対象者に関する情報についてどこまで、どのように対応するか、非常に難しい判断を迫られている。

例えば、敬老会のお祝い会を行うために、対象者の名簿をどのような形で提供すれば良いかというようなことも、いろいろな事例を参考にしながら対応している。

町民の皆さんに対する様々な福祉サービスが、スムーズに行われるような対応を心がけていきたい。

———— 小摺戸地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 空き家を利用した高齢者の集いの場の設置を
- 子どもの医療費の全額助成を小学校6年生まで拡充してほしい
- 有意義な懇談会であった
- ダム排砂は環境に留意し生態系の維持を
- 町公共事業の落札率 95%以上は問題では
- 一宿の柳の並木を調査し、処理してほしい

地域課題・地域づくり

新屋地区

日時：平成 17 年 11 月 8 日（火）

会場：新屋地区公民館

(1) 南部コミュニティセンター等の将来像について

☆住民

南部コミュニティセンター及びフラワーセンターができてから約 30 年が経過し、非常に老朽化が進んでいる。当時は「ふれあい温泉」や「らくち〜の」はなく、風呂付きの施設としてそれなりの利用があったであろうし、今日もレクリエーションの場、入浴、憩いの場として利用されている。また、当時、新屋地区公民館がなかったため会議室の利用も多かったように思われる。

以来 30 年が経過し、施設は相当老朽化している。冷房装置の配管が痛んでいたりと、貯水タンクが腐食して錆水が出たりして、風呂の利用者も年々減少している。

もちろん、この施設は新屋地区と小摺戸地区の両地区で推進協議会を設け、1 戸あたり 1,500 円の負担金をいただきながら運営していた。それを今年から 200 円下げて 1,300 円で風呂の燃料代の 70%をまかない、30%は町で負担していただいている。今年に入って原油価格が値上がりし、地域の負担もそれに伴い大きくなるのではと危惧している。ちなみに、1 日の風呂の平均利用者数は 9～10 人にまで落ち込んでおり、利用料については 150 円をいただいている状況である。

フラワーセンターについては、昭和 51 年に農村総合整備事業で造られた施設である。

しかし、実際行ってみたい、家族を連れて行きたい施設であるかという疑問に思う。また、町の小学校や保育所の子どもが見学に来ることもないと聞いている。

専用電話がないため、南部コミュニティセンターの方に全国から花の問い合わせの電話が入っており、それに答える専門職員もいないため、県の植物園に問い合わせてもらっているという状況である。

入善町には菊の会、山野草の会や皐月の会等、花に関わる団体が多数あるので、それらの展覧会等を開催したりすればセンターはもっと活発に機能するのではないかと考える。

南部コミュニティセンター及びフラワーセンターを活用して、もっと新屋地区が発展し、暮らしよい地域づくりにつなげていきたいと考える。

★教育長

南部コミュニティセンターについては、地域の多様なコミュニティ活動を通じて、地域が連帯感を活性化するという事で、町が建設したと聞いている。現在、運営協議会の皆さんの力と知恵によりたくさんの方が利用されている。

年々利用者が減少しているとの心配の声があったが、現在、年間利用者は 2 万 7 千人おり、昨年あたりからは、子どもかがやき教室等の活動を通して利用者が増加していると考えている。今後の活動についても、地域の方々、特に運営協議会の協力を得ながら運営していきたい。

今後の方向としては、子どもが健やかに育つように放課後の活動や地域との交流等の体験学習ができるような、ミニ児童館あるいは放課後児童クラブの場としての活用を考えていきたい。

そういった活動には地域の方々の協力が不可欠なので、ぜひ協力をお願いしたい。

★生涯学習・スポーツ課長

かがやき教室でセンターを利用しているが、これは子どもの居場所づくりという国のメインテーマを、富山県を通して町が行っている事業である。

冷暖房設備の配管が腐食して機能していないということだが、昨年、2階冷暖房の一部配管が腐食し、下まで水が垂れた形跡があった。これについては部分的に管を繋いで機能させてある。今日も確認したところ大丈夫であったが、あくまでも一時的な処置なので今後、抜本的に対応を考えなければならない。

貯水タンクの赤錆については、暖房のためのお湯に混入しており、先般ボイラーの切り替えを実施したところ、やはり赤錆が出た。地元の業者より掃除をすれば大丈夫だと聞いており、立会いのもと確認したところ、錆は出ていなかった。今後、また錆が出てくるようであれば基本的なところから対応を考えなければならない。

高齢者が利用する施設にしては手すりもなく段差が多いとのことだが、昭和51年に建設された施設であり、当然、老朽化し、バリアフリーの対応もされていない。これら諸問題については、運営協議会の中で詳細を協議しながら対応していきたい。

★商工水産・深層水課長

町民の足の確保という立場から、町営バス「のらん・マイカー」の運行を平成11年度から実施している。平成14年度に一度ダイヤ改正し、今年10月1日にも地鉄バス新屋線の廃止や始点から終点までの運行時間に対する苦情、町の周辺を循環するコースが効率的に組まれていないなどの指摘をいただき、再度のダイヤ改正を行った。

新屋地区や小摺戸地区については、南部コミュニティセンターへのアクセスを良くしてほしいという要望を受け、ルート変更を行った。

今後もバスの運行に関しては皆さんの意見を聞きながら検討していくが、限られた時間、限られたルートを安全に運行していくために、多少ご不便をお掛けすることもあると思うが、ご理解をよろしくお願いしたい。

特に新屋地区に関しては、入善駅前から舟見に抜ける新屋線を町で確保している。通勤・通学にも大いに利用していただきたいと重ねてお願いする。

★建設課長

フラワーセンターについては、建設当時、植物の観賞用施設は富山市と入善町の2ヶ所しかなく、多くの人に来ていただいた。

当時のセンターの目的としては、町の施設やボランティア団体への花苗の供給施設ということでスタートし、現在も年間約9千～1万ポットをそれぞれの施設へお届けしている。

入園者については、年間約1千人余りの方が訪れており、町外の方にも少なからず利用していただいている。また、県政バスの巡回コースにもなっており、それなりに皆さんに楽しんでいただいているものと考えている。

地域の活性化の場として、今後どうすれば良いか、皆さんの意見を聞きながら検討していきたい。

南部コミュニティセンターの老朽化に伴う安全対策として、アスベストについては平成

2、3年に対応しており大丈夫である。また、耐震性については昭和51年建設ということで、やはり問題はあるので今後、検討していきたい。

(2) その他

☆住民

安全・安心のまちづくりというが、黒部川の洪水に備えて中州を無くすよう関係省庁に働きかけられないか。浦山新と福島が危険なように思える。

★町長

黒部川河川事務所へ話したい。危険箇所については必ず検査し、順次直している。専門的な調査をして問題が見つかれば対応していかなければならない。

☆住民

かがやき教室について、私も紙芝居や読み聞かせに参加しているが、大人の方が子どもから喜びや輝きをもらっているような本当に有意義な教室である。

教室での発表の際にマイクがあればと思うが、備品の整備はどこに相談すれば良いのか。

★教育長

各公民館の施設設備についてできるだけ整えるように努めているので、どの施設にどんなものが必要か聞かせていただければ対応したい。

☆住民

黒東小学校周辺の消雪装置の問題について、現在電気料金は77%が町、23%が地元負担である。また、修繕費については10万円を超えるものは地元負担、10万円以下のものは町が負担となっているが、あの道路は通学路と考えており、なぜ23%も地元が負担しなければならないのか。

★建設課長

本来は100%地元負担となるが、公共施設に通じる区間ということで負担を軽減しており、私共とすればある程度地元をお願いしている。

☆住民

スマートICについて、将来的に双方向通行可能になると、現在の県道では幅員が足りないと思うが、県道の拡幅はあるのか。

★町長

入善スマートICに接続する主要地方道入善宇奈月線が狭いということだが、将来的に

は拡幅されるよう県にもお願いしているところである。現在、国道8号線から大型車が進入するために黒部方面からの右折については、一旦停止の位置を下げてくださいよう話をしている。また、朝日方面からの左折についても中央通り線の整備に併せて交差点を拡張するようお願いしたい。

町新屋の交差点も大型車は曲がりにくい。県とも話をしているが、将来的には大型車が曲がれるような交差点にしたいと考えている。

☆住民

将来的に、町の行革で新屋・小摺戸の保育所が合併することはあるか。

また、保育所の合併は今の南部コミュニティセンターの場所を考えているのか。そうであれば、今後の南部コミュニティセンターの活用の考え方も変わってくる。南部コミュニティセンターの位置に保育所ということであれば、黒東小学校も近く、立地条件としては良いのではないかな。

★町長

保育所の合併は、現在、検討委員会で検討している。築30年以上の保育所や入所数が20人以下の保育所もある。そういう保育所を今後どうするか、統廃合の問題も含めて答申をまとめているので、それを受けて我々も精査しながら考えていきたい。

新屋・小摺戸地区については、将来的に小学校下に1保育所ということを考えると、現在の南部コミュニティセンターの位置は黒東小学校にも近く、選択肢の一つとしては良い案だと思う。

———— 新屋地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- より細やかな防災訓練の実施を
- 南部コミュニティセンターを児童館として活用しては
- 南部コミュニティセンターを高齢者が集う場にしては
- 通学路の安全確保のために防犯灯の設置を
- スマートＩＣの早期本格設置を
- のらんマイカーの増便とバリアフリー化を
- 南部コミュニティセンターの位置に小摺戸・新屋統合保育所の新築を
- ３世代、４世代同居家庭への補助で生み育てやすいまちづくりを
- 町民参加型で気軽に発言できて良かった

地域課題・地域づくり

梶山地区

日時：平成 17 年 11 月 11 日（金）

会場：梶山地区公民館

(1) 梶山用水・横山用水を中心とした川について考える

☆住民

梶山用水、横山用水は梶山地区を縦に流れている。住民の日々の生活には大きく貢献している大切な川であり、農業用水や防火用水として利用され、また、生活排水あるいは汚水を流している川である。

4月に入善警察署の生活安全課長からパトロールしてみると、用水の傍で家庭の建築廃材を燃やしている方がおられるということで、地区としてどういう対応をしているのかという注意があった。今回、特に自分達でできることは何か、地域でできることは何かという観点から色々と汚染、景観の問題について意見を聞かせていただきたい。

次に、安全・安心の見地から災害のない川にするにはどうすれば良いかということである。これについては7月12日に田ノ又地区で床下浸水があった。地球温暖化や宅地開発が進んだことなど、様々な要因はあるだろうが、災害を無くすにはどうしたらよいかということを検討していただきたい。

☆住民

現在、町では河川の汚染問題についてどのように取り組んでいるのか。

★住民環境課長

ごみの不法投棄については法で規制されており、5年以下の懲役あるいは1千万円以下の罰金という罰則規定もある。これと併せて、不法投棄防止に関する看板を設置したり不法投棄一掃のPR活動が続けたりしているが、非常に残念なことに相変わらず不法投棄が後を絶たない。

警察などの司法に委ねる方法もあるが、最終的には個人のモラル厳守による以外ないのではないかと考える。

これらをなくすためには、個人は当たり前であるが、地域をあげて不法投棄をなくすような取り組みに努めていただきたい。

町では、今年から7月を清掃月間とし、クリーン入善7129作戦を実施している。各地区区長会長、あるいは各種団体の協力を受け、住民の多数の参加をいただき、全町的な清掃活動を実施した。約4,500名の方の参加をいただき、町は非常にきれいになったと自負している。皆様のご協力に大変感謝している。

こういう活動を中心に、地区全体で取り組んでいただければありがたく、皆様のご協力をお願いしたい。

☆住民

クリーン作戦の話が出たが、そういうことを見回る委員会等はあるのか。

★住民環境課長

現在、入善町では環境保全監視員を42名委嘱している。そういった方に不法投棄等の監

視や指導、啓発をしていただいている。町だけでは対応しきれないところもあるので、このような方をお願いしながら環境整備に努めている。

☆住民

今までは、用水というのは田に付随するものとして、農家の責任でそれぞれ管理してきた。しかし、最近は委託をして農家でありながら田に出ない人も多くなってきている。

このような状況で、用水沿いの草刈りや雑木の管理についてどうすれば良いか聞きたい。

★住民環境課長

本来は、用水ということで土地改良区が管理するのが良いと思う。ただし、自分でできるもの、地区でできるものは、自助・共助ということで何とか協力していく方法で対応することもお願いしたい。

☆住民

ひとつの意見であるが、小杉地区に入川堤防管理組合というものがある。県から町を通して年間に㎡当たり約 30 円の助成を受けている。これを利用して、年に一度の草刈りの経費に当てている。町においても、そういう手段により柵山用水や横山用水の管理をすることができないか。

用水は、やはり農業用の利用頻度が高いが、火災等に対する防災用の利用もある。そういう角度から見れば、例えば河川税等の税金を町民が納得できる形で徴収し、それを河川の管理を目的に当てることもできるのではないか。

★建設課長

県の河川の入川については、そのような手段で農家と協働で管理しているのは事実である。ただ、町内で県の河川は入川、小川、舟川、平曽川と数も少ない。町全体の河川をそのような手段で管理していくのは、容易なことではないと思う。できれば、地域の皆さんで共助という形で管理していただけないかと思う。

現在、国において、これから用水をどのように維持管理していくか検討をしている。平成 18 年度に全国でいくつかのモデル事業を実施し、平成 19 年度あるいは 20 年度に補助などを含めて地元には負担のないような方法で維持管理することを検討している。それを見極めて対応させていただきたい。

☆住民

一級河川や二級河川は国が管理すると思うが、町が管理する川はあるのか。

★建設課長

町の管理する川はない。用水等は全て土地改良区の管理になる。

☆住民

私は空き缶拾いや不法投棄について、年に1、2回程度、海岸や黒部川に動員がかかって行くことがある。不法投棄は罰則規定を設けても根本的な解決にならないということであれば、川に網をかける等、海まで流れる前に途中で拾うしかないのではないかと。また、そのようなことは可能であるか。

★建設課長

入善町では農業用排水としてほとんど整備されているが、特に下流においては、現在の自然環境の変化や最近の短時間での集中豪雨になかなか対応できない構造のものが多分にある。

これを根本的に改修することになると、莫大な費用が掛かり、場合によっては地元負担というものも発生しかねない。これらを考えると根本的な改修は難しいと考える。

そうすると、既設の水路を利用しながら減水用の水門で調整したり、部分的に改修したりするしかない。また、住宅団地や大型店舗の開発があった場合には、そこから用水へ一気に排水されないように敷地内に調整池をおき、一度溜めてから水路に流すような指導をし、対応せざるを得ないと考えている。

特にこの地域においては、横山用水で度々溢水被害が発生している。町においても水門の設置や枝水路の改修で対応しているが、今年も田ノ又地区で床下浸水の被害が起きた。

水門の調整については、町も改良区と連携を取りながら対応しているが、今年のように深夜の集中豪雨の場合には、どうしても対応が遅れることがある。

町では横山用水の初動体制での水路管理を簡素化する方法について、平成18年度から国の補助事業として、新農業水利システム保全対策事業に取り組むことを検討している。この件については、国や県に働きかけているところで、一応、内々の承諾は得ている。実施方法は検討中で、今後、皆さん方にも意見を聞かせていただきながら、実施すれば、今年のような溢水被害が避けられるのではないかと考えている。

川に網をかけることについては、短時間での集中豪雨が起きた場合、網にごみが詰まって溢水の原因となることが考えられるので難しいと考える。

☆住民

横山用水の場合は、幅が下流へ行くほど狭くなっている。溢れる箇所も大体決まっているが、そういうことは町でも把握しているのか。

★建設課長

これまで構造的なところは、ある程度、改修してきている。去年は何事もなくほっとしていたが、今年は田ノ又地区で被害があったということで、まだまだ、対応が足りないと考えている。

先程言ったように、本線への水路手段として下流の方へ影響のないような方法を検討しているところである。

☆住民

上流でいくつか観測点を設け、一定量の雨が降ったら防災無線等を活用し、下流地区へ増水に関する情報を随時流せば、それを聞いた近隣の住民が水門を止めることもできる。

情報伝達システムを確立することにより、個々の住民が対応できる体制ができるのではないか。

これに併せて、櫛山新の辺りは屋外防災無線が聞こえづらい。これらも整備しながら住民への伝達システムを確立すれば、自助・共助での対応ができると思う。

★総務課長

集中豪雨や台風等の風水害については、最初にラジオ、テレビなどで情報をつかめる。また、地震のように予知ができないものについても、それぞれの対応がある。

町では、黒部川ハザードマップを作成しており、平成 18 年 3 月には、「防災マップ」を皆さんに配布したい。

災害時には、町では、建設課や総務課、消防署が待機し、常に警戒にあたっている。非常時においては、防災無線やみら一れテレビ放送で皆さんに知らせるという体制を整備していきたい。

☆住民

屋外防災無線は校区の中心部にはあり、郊外にはないのだが、どのような基準で設置されているのか。

★総務課長

狭い範囲で屋外防災無線を設置すると、お互いに音がぶつかり合って聞こえないので、範囲を設定しながら設置している。

町では個別受信機の普及を促進しており、購入に対する助成も行っている。例えば、新潟の集中豪雨でも、無線や広報車で情報を流しても窓を締め切って聞こえなかったというケースがあった。それで避難が遅れ、大きな被害につながった。

それを踏まえ、個別受信機やみら一れテレビ放送などを利用した情報伝達システム、体制をつくっていききたいと思っている。

☆住民

土地改良区へ用水についての意見、要望等を出しているが、費用的な問題もあり、なかなか良い返事が返ってこない。

一方、町で管理する川はないとのことであるが、管理していない町へ要望するのは矛盾しているのかなと聞いていたが、土地改良区と町の間には連携はあるのかお聞きしたい。

★建設課長

土地改良区は各用水とその水の管理を行っている。

町との連携というと、町へ要望されたものを土地改良区へその旨報告し、土地改良区で

できないということになれば、町の方で対応している。土地改良区も予算がないということだが、町も財政的に厳しい中で、緊急を要する箇所について対応している。

☆住民

横山用水は、小杉の方は跳び越えられないほど川幅が広いが、桃李小学校辺りに来ると跳んで渡れるくらいに狭くなる。土地改良区としては設計上のミスではないかとの考えもある。

維持管理組合で維持管理しようと思うが、維持管理組合だけでは、あの用水の改修はできない。櫛山地区はもともと 360 戸で、それに合わせて用水も設計してある。それが今では 800 戸になっており、農家の数が減少している現在、地元負担の工事は 100%できないのではないか。

平成 18 年度から国の補助事業を検討しているとのことであるが、このような状況の中で町は、どのような考えを持っているのか。

★建設課長

設計については、確かに当時の社会環境や田の状況、それらの水の必要性から設計されている。その当時はそれで良かったのだろうが、現在の社会環境に合わせて抜本的に改修ということになると、費用面から見てもなかなか困難であると思う。

我々も国の方へは、何とか維持管理について考えてもらえないかと再三お願いしている。国でも平成 18 年度にモデルをつくりながら、できれば平成 19、20 年度頃から本格的に事業化したいという思いがあると説明を受けている。

どのような事業内容になるのか、それを踏まえながら、土地改良区と今後とも連携を取り対応に当たっていきたいと考えているのでご理解をお願いしたい。

☆住民

桃李小学校ができたり住宅地ができてきたりして、地域の環境が様変わりしてきた。平成 18 年度から町も検討するとのこと、地区からもお願いしたい。

また、地区としても、各町内会で管理組合について補助金が出ないか等検討し、より住みよい町、きれいな川づくりをしていきたい。

———— 梶山地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 災害時の緊急伝達体制の明確化を
- 冬期間の通学路での工事は中止すべきである
- 通学路整備の早期実現を
- 不法投棄一掃の強化を
- 用水を利用した小水力発電の検討を
- 野焼きに対する取締りの強化を
- 横山用水の早期改修を

地域課題・地域づくり

横山地区

日時：平成 17 年 11 月 10 日（木）

会場：横山漁村センター

(1) 桃李小学校への通学路道路整備について

☆住民

八幡、横山地区の児童・生徒が通学する通学路の問題である。

一番懸念されているのは、主要地方道入善朝日線と県道小杉栲山新線の交差点の問題である。栲山地区に位置することやＪＲのガード下を通過するということで難解な問題かと思うが、子どもの安全・安心を確保するため、町にお願いし続けなければならないと思う。

通学路の問題について、現在どのように考えているのか、また、この先の展望をお聞かせ願いたい。

また、古黒部、藤原地区の児童・生徒が通う町道藤原長島線の問題であるが、現在、拡幅工事が行われており、間もなく拡幅工事は終了すると思うが、あの通学路は夜になると暗くなるし、冬になれば雪など、いろいろな問題を抱えている。道路拡幅だけでなく防犯灯も必要である。また、１ヶ所くらいトイレも必要ではないかと思う。そういうことも含めて、通学路の整備を進めていただきたい。

★建設課長

県道小杉栲山新線のＪＲアンダーから主要地方道入善朝日線の交差点間の整備については、町も以前から強く県に対して要望しており、入善土木事務所も国道８号から上の改良が完成し次第、取り掛かりたいと言っており、町も早期整備を期待していた。

しかし、県の財源も厳しいということで方針が変わり、まずは継続事業を優先的に進め、新規箇所については、当分、実施しないとの返事を受けている。

特に交差点については、待避所もないということで非常に危険で、現在整備している路線と同一路線ということで、継続事業として整備してほしいと県にお願いしていきたい。

町道藤原長島線については、用地の協力をいただいた箇所から順次工事しているところだが、皆さんの協力をいただき 250m余りの工事の発注をすることができる。残りは 200m余りになったが、用地の協力によっては平成 18 年度に改良工事を完了できないかと考えている。

★総務課長

防犯灯については、去年も同様の話が出たが、今後、北陸電力あるいはＮＴＴと協議しながら設置を検討していきたい。

☆住民

小学校統合の際に一番心配したのは通学路となる、県道小杉栲山新線。ＰＴＡとしてもいろいろお願いしてきた訳だが、物損事故や人身事故が年間４、５件程おきている危険な道路であり、早期に子どもがスムーズに安心して通えるように強く要望する。

★建設課長

入善土木事務所も毎年本庁に予算要求しているということであり、我々も引き続き要望

していきたい。また、地区の皆さんにも一緒になってバックアップしてくださるようお願いしたい。

★町長

まず、県の許可を得ることが必要なので、県と話をして許可をもらってから地元に入っていくということをご理解いただきたい。

もちろん、手をこまねいているわけではなく、毎年、県へ要望しているが、県においても財政状況が厳しい折、なかなか良い返事をいただけない状況である。梶山地区の工事箇所が今年度中に仕上がれば、すぐに横山地区に入っていただけるように、これからも要望していきたいと考えている。

★教育長

教育委員会としても、通学路の安全対策など関係機関へ働きかけているのでご理解いただきたく、ご協力をお願いしたい。

☆住民

桃李小学校の前に信号機を設置していただければ、児童・生徒は安心して道路横断できる。今の様子を見ると、先生達が交通指導しながら、車を止めて横断させている。

★総務課長

毎年4月に入善警察署、あるいは交通指導員や地域のPTAの方で危険箇所の地図を作成している。その中で、特に優先度の高いものについて整備を行っている。

ご指摘のように、信号機があれば事故も未然に防ぐことができる。今後、PTA、地域の皆さん、町をあげて県警へ呼びかけて、早期に設置できるよう努めたい。

☆住民

町道横山梶山新線の約250mの区間において、消雪装置が未設置である。道路の拡幅と消雪装置の設置は小学校の統合の条件としても示されており、通学路の整備の請願書を出して採択されている。

消雪装置の整備については、地元負担の原則があるわけだが、通学路整備という観点から全額県や町で負担してほしい。

★建設課長

消雪装置の整備については、町では地元負担という規定をつくってお願いしているが、当時、梶山地区で理解を得られなかったという経緯で現在に至っている。

通学路であるから町の全額負担でできないかということだが、公共施設へつながる道路については、ある程度の負担の軽減を行っており、それに基づいて整備している。それらのルールに基づき、今後、梶山地区の皆さんとともに協議していきたい。

(2) 勤労者総合スポーツ施設（サンビレッジ）運動場、桜並木道路の整備について

☆住民

サンビレッジの運動場が狭いということで、昨年のまちづくり懇談会でも話が出て、町から平成 17 年度から拡張するという回答をいただいた。地権者との問題など、現在の詳しい進捗状況を教えていただきたい。

横山排水路の土手沿いに桜の苗木をいただき、約 26 年間育てた立派な桜並木がある。その桜並木に並行して松風団地からサンビレッジまで続く道路があるが、桜の季節には地区外からもたくさんの人が訪れる。しかし、道路が狭いために交通安全上、大変危険な道路でもある。この道路の拡張と遊歩道の設置について請願書を提出し、議会でも採択されている。

また、漁村センターや保育所、サンビレッジなど地区のふれあいの拠点として、一体的な整備をお願いするところであり、早期実現に向けて町の考えを聞かせていただきたい。

★企画財政課長

運動場については昨年採択され、手続を取っている。担当係長が来ているので詳しい状況はそちらから報告する。

★スポーツ係長

平成 15 年 7 月に地元からグラウンド拡張整備についての要望書が町へ提出されている。グラウンドを拡張し、隣接するサンビレッジ（体育館）との相乗効果により、総合スポーツゾーンとしての機能充実を図るために整備をしていきたいと計画された。

今回、区長会や地元の皆さんのご協力をいただき、土地の所有者の方から用地の内諾をいただいた。現在、県へ事業認可の申請をしており、12 月の半ばくらいには許可が下りるものと思っている。許可が下りれば、直ちに地権者と契約を結び、登記手続や周辺整備に伴う測量・設計を行っていきたいと考えている。

今後、できれば来年春までに外構工事を終え、秋を目安としてグラウンドの造成工事を完成したいと考えている。内容については、ソフトボールができ、200mトラックが取れる程度の広さの施設を考えている。

現在、サンビレッジについては、地元の皆さんのご協力をいただき、管理をしてきている。グラウンド拡張後も地元の皆さんのご協力で施設の維持管理をしていただければと思うのでよろしくお願いしたい。

☆住民

そうすると、来年の運動会は広いところでできるのか。

★企画財政課長

グラウンド造成整備については申し上げたとおりで、来年の運動会はぜひ広いところで思い切りやっていただけるよう努力しているところである。

なお、県の事業認可というのは、土地収用法の適用を受けて事業に入るため、県にも理解を示していただいているということである。一生懸命手続を進めているところである。

グラウンドができると、体育館があり、テニスコートがあり、広いグラウンドがあり、そして今のグラウンドは緑の広場や芝グラウンドとして使っていただくなどすれば、横山の立派なシンボルゾーンになるだろうと思う。

桜並木であるが、できれば来年度に整備したいと考えている。

しかし、町もそれなりに投資をしていくので、あのシンボルゾーンをどのように生かすのかということを地域の皆さんでも考えてほしい。例えば、桜並木にベンチを置きたいということであれば、自らの手で作ろうという意気込みも必要である。

そして、わが桜並木は、公園もベンチも地域の手作りなのだという位の思い入れもあっても良いと思う。計画としては来年度着工していきたい。

☆住民

地元も頑張るので町も実現に向けてご協力をお願いしたい。

（３）漁村センター（憩ホール）の建設について

☆住民

横山地区は聞くとところによると入善町で一番高齢化が進んでおり、約 300 人の高齢者がいるのではないかということである。

今年の敬老会には約 140 人が出席した。出席されなかった方の中には、2 階へ上るのが辛いという人も少なくないようである。

高齢化の時代であるから、1 階にホールがあれば高齢者にも来やすい施設になる。ぜひ実現するようお願いしたい。

★企画財政課長

漁村センターの拡張の件であるが、十分承知している。

町内には老朽化が進んでいる施設がまだいくつかあるので、順次計画的に改修していきたいと考えている。

（４）海岸（離岸堤、海浜公園、防潮林）整備について

☆住民

自助・共助によるまちづくりという話が出たが、そのとおりだと思う。しかし、行政に頼らざるを得ない問題もある。

現在、古黒部地内で防潮林の整備を行っている。その防潮林をさらに西側へ整備してほしい。

八幡地区からも要望が出ていると思うが、防潮林がないと水稻が駄目になる。一昨年には、被害を受けており、防潮林があるのとないのとでは車等の錆び具合も違う。防潮林の整備をぜひともお願いしたい。

2つ目に離岸堤について、古黒部地内の清水川の河口が毎年砂利で埋まり、町内業者が国土交通省から請け負って年5、6回砂利をさらっている。あの沖に離岸堤があったら良いと思う。

3つ目に海浜公園だが、こんなに長い海岸線を持っている入善町なので、ぜひ、観光レジャーの目的で整備してほしい。石田海岸に海釣りの桟橋があるが、入川の船溜まりにもあのような施設を整備し、一大マリーナにさせていただいて、若者が集まるようなエリアにしてはいかがだろうか。

工場誘致等、雇用創出において町は非常に努力しているが、増えた若者をどこで遊ばせるかを考えていただきたい。そのためには、このようなことも1つの有効策だと思う。

★企画財政課長

防潮林については、まず古黒部から手掛けていきたい。清水川までは第1期、第2期としてやっていく。それが終わった後に八幡地区の計画である。県と交渉しながら事業を進めている。

海浜公園は、地区の皆さんがどのような形でどう利用したいから必要だという目的意識や熱意を明確にして、地域でグランドデザインを描いてほしい。その上で町、地域、個人がお互いに何ができるか考えていくことも必要である。

海浜公園という思いがあるならば、自らがスコップと一輪車を持ってわがまちの公園をつくろうという発想があっても良いと思う。町は支援を惜しまない。

横山、八幡、春日海岸を1つのレジャー施設として、何か活用できないかという思いは、町も持っているので皆さんとともに考えていきたい。

(5) その他

☆住民

J R北側の東西の幹線道路について、幹線道路網計画においては中・長期的な展望予想となっていた。当時サンリッツはなかったが、今回新たにJ R北側にあのような大きな工場ができる。今まで以上に交通量が増えるのではないかと懸念している。

ぜひ、町東部のJ R北側の幹線道路をつくっていただけないか。

★建設課長

県の構想の中に、海岸線を魚津から朝日までの区間をつなぐ湾岸道路があるが、あくまでも構想であり、内容については今のところ明確ではない。それらとも調整しながら考えていきたい。

☆住民

今、三位一体の改革という言葉が出てきているが、入善町にとっての三位一体の改革のメリット、デメリットをどう考えているか。

★企画財政課長

国の三位一体の改革というのは、市町村への補助金を削減し、地方交付税の見直しを行い、その代わりに税源移譲をするというものである。

地方交付税も補助金も削減されたが、その分の税源移譲はされていない。平成16～18年度の3年間で改革は進められるが、入善町の削減額は、約6億円と見込んでいる。

三位一体の改革は大事なものであろうが、今のところ各市町村にとって財源的なメリットはない。

税源移譲をいつ、どのような形で各市町村へ配分するのか見えておらず、財政的に非常に厳しい状況である。

———— 横山地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

○災害弱者への対応は共助と公助の連携が必要

○通学路整備の早期実現を

○学校給食の自校方式の継続を

○子育ては学校に任せっきりでなく地域で

○若者の定住対策として企業誘致の推進を

○スマートＩＣの早期本格設置の実現を

○下水道工事の早期着工を

○町活性化のために深層水の有効利活用を

地域課題・地域づくり

舟見地区

日時：平成 17 年 11 月 23 日（水）

会場：舟見コミュニティ公民館

(1) 少子高齢化社会に向けた対策について

☆住民

現在、地区社会福祉協議会で独居高齢者や弱者の安否確認等の見回りを実施している。冬期間の除雪や買い物等もお願いされているが、ここまで高齢者が増加してくると、見回りネットワークの限界も見えてきている。近所付き合いを嫌がる高齢者も多く、地域コミュニティを再構築する工夫が必要ではないかと思っている。

また、他地区に住んでいる子が親の面倒を敬遠しがちで、近所任せにする気運もある。そういったことから、自分達の地域は自分達の手で作ろうとする気運が高まるような相互扶助の環境づくりをお願いしたい。

行政としては、買い物や病院等への交通手段に一層の援助をお願いするとともに、コミュニティの活性化等に配慮した施設の整備など考えていただきたい。

★健康福祉課長

少子高齢化対策については町の重点課題ということで、行政的な面では高齢者保健福祉計画や子育て支援行動計画等を作成しながら、介護保険制度をはじめとする公的福祉サービス制度の充実に努めているところである。

誰もが住み慣れた地域で安心して暮らしていける環境づくりが大切であり、そのためには、公的サービスの拡充はもちろんであるが、家庭や地域、ボランティアといったそれぞれの主体が力を合わせて助け合う、住民参加による福祉コミュニティづくりが大切であると考えている。

福祉コミュニティづくりについては、社会福祉協議会等が中心となり、地域福祉活動計画に基づき、精力的に取り組んでおり、今年度においても第2次行動計画の策定に向けて懇談会や勉強会を開いている。

舟見地区においては、高齢化率が寿楽苑を除いても30%を超えているということで、町の高齢化率25.5%を大幅に上回っており、大変高齢化の進んでいる地域だと認識している。

地域コミュニティが希薄化している今日、行政と地域住民が協働で力を合わせて対話していく必要がある。皆さんからの提案を受け、施策として実現できるものについては最大限に努力していきたい。また、地域の中でも住みよいまちづくりに努めていただきたい。

(2) 市町村合併と今後における周辺地域について

☆住民

富山県の市町村は、平成16年には35あったかと思う。来年度には15になる。富山市から西側については、ほとんど合併し終わり、東側が残っている。市町村合併は、一つの時代の流れではないかとも考えている。

県は1兆円近い借金があり、公共事業の2割削減や職員給料の5%削減など、行財政改革を進めている。

入善町においては、今後、今まで以上の行財政改革を進め、町民の皆さんに一層の我慢を求めて単独町政でやっていくのか、あるいは合併するのか聞かせていただきたい。

★町長

私は、合併は否定するものではないと思っているし、いずれ必要なものだと思っている。しかし、地方公共団体を取り巻く財政状況は、三位一体の改革等で不透明であり、ますます厳しくなることが予想される。これは、合併してもしなくても同じだと考えている。

また、住民サービスを維持する必要がある。小さな行政組織への移行を求められているのではと思っている。

単に合併すれば良いのかということそうではない。合併するということは町民の皆さんの合併への理解や気運の盛り上がりがないとできない。合併する以上は、対等互惠の精神で町民の皆さんのための合併であることが基本であると思っている。合併の気運が盛り上がってくれば、町民の皆さんや議会とも十分に協議して考えていかなければならない。

歴史的な結びつきも強く、現在もごみやし尿処理、火葬など様々な事業を連携して実施している新川地域での合併も視野に入れる必要がある。

★企画財政課長

単独町政を選択していくと入善町の財政は維持できるのかといった声が聞かれる。

国が地方交付税を算定するとき全国 2,400 余りの町村の人口規模、財政規模、産業構造等をもとに地方公共団体を分類しているが、その中で入善町は約 100 位であり、極めて優良な団体である。皆さんには、こんなに財政的に強い町にいるということに自信を持っていただきたいと思っている。

入善町の財政状況については、合併協議に際して 5 年、10 年、あるいは 20 年先のシミュレーションを何度も繰り返しているが、財政が破綻するような数値は出てこない。

財政の弾力性を示すものに経常収支比率というものがある。富山県下 85～86% となっているが、これが高いほど動脈硬化を起こしやすく、コレステロールの高い町ということになる。入善町は 80% を切ろうとしており、県下の町村では第 2 位である。

今、財政運営上目指しているのは県内第 1 位である。このように健全な財政運営に努めているので、ご理解をいただきたい。

(3) 舟見山周辺整備について

☆住民

舟見城址館や山の本陣、ふれあい温泉等の交流場所の利用者が年々減少している。

地区としては多くのお客様に来ていただきたいということで、今年から独自で花のボランティア事業を始めた。地区の事業として今後も継続し、舟見山を花で飾り地域の楽しみ場として、交流と活性化を目指して頑張りたい。

舟見城址館から海側を眺める景観は県下でも最高の展望であり、アクセス道路の幅員が

狭いためにバス等が乗り入れできず、お客様にご案内できないというのは非常に残念である。そこで、このアクセス道路を広くするという考えがあるのか聞かせていただきたい。

また、熊坂トンネルの改修を行い、アクセスの利便性を図っていただきたい。

谷江の堤へのアクセス道路について、美しい山里の整備事業を利用して手入れする考えはあるのか聞きたい。

舟見山周辺には、現在、放棄田が多数見られる。それを有効活用することにより、ふれあい温泉や舟見城址館、バーデン明日への誘客力の向上につなげることはできないか。

舟川ダム工事に伴う残土は舟見地内で処理し、舟見周辺整備をぜひとも進めていただきたい。

★商工水産・深層水課長

舟見山周辺は、豊かな自然の中で黒部川扇状地や富山湾が一望できる、町の一大観光スポットと言って良いと思う。四季折々の草花を楽しみにたくさんの方においでいただいている。また、舟見城址館においても、年に3、4回の企画展示などを開催しながら、多くの方に来訪していただけるように努めているところである。

地元の皆さんの協力により植樹などの奉仕活動も行っており、それらの草花についても舟見城址館の一つの見所として今後PRしていきたいと考えている。また、ふれあい温泉やバーデン明日等を含めて相乗効果を上げるように努めていきたい。

大型バスの乗り入れについて、地権者のご理解をいただきながら平成4、5年度に林道中野線の入口の部分と、舟見山自然公園線の終点部分で拡幅工事を行っている。

また、山側に上がっていくと尾根を利用した道路になっており、それらの拡幅には多額の費用と財源の確保という大きな問題があり、休止しているというのが現状である。国・県の補助事業なども模索しながら事業の実現に努めていきたいが、厳しい状況であることをご理解いただきたい。

現在、マイクロバスでの乗り入れは可能であり、交通機関への周知を図りながら、多くの方に足を運んでいただけるようにしていきたい。

また、谷江の堤までの散策路の状況について、大変雑草が生えているということはお指摘があったとおりであり、車で乗り入れるには抵抗感があると思う。できれば地権者による下刈りをお願いできればありがたい。

舟見城址館での企画展示や山の本陣、自然の眺望等をもっとPRして、町の一大観光スポットにしていきたいと考えている。

★建設課長

熊坂トンネルの改修であるが、熊坂トンネルあるいは林道整備については舟見山周辺整備の中で対応していきたいと考えている。町とすれば、財源確保のできたものから、順次整備していきたいと考えている。

現在、中野線の舗装の計画を立てているところで、熊坂トンネルについては、今後の財源の見通し等を十分に詰めてから実施していきたい。

舟川ダムについては、入善土木事務所の方ではダム本体の工事が若干遅れており、平成

18 年の 12 月議会に提案するように準備しているとのことである。

残土については、平成 19 年度から本格的に出てくるものと考えており、約 14 万 m³と聞いている。来年度は、8 号バイパス整備の盛土として使用したいとのことであり、平成 19 年度以降については、現場工事用に使ったり付近にストックしたりして、原則、地区外へ搬出しないように計画を立てるということである。町においても地区内で利用できるよう進めていきたい。

(4) 地域の安全と安心を守るために

☆住民

舟見地区では自主防災会を平成 12 年に結成し、これまで活動してきた。幸い、大きな災害もなく、毎回同じような訓練を繰り返し、組織員の緊張も緩みがちになってきている気がする。今年で町内全地区に自主防災会が設置されたということで、今後は、町主導で地域の訓練のあり方、町全体を網羅した非常訓練等を指導していただきたい。

また、町では防犯パトロール隊や学校安全パトロール隊の結成を進めているが、それぞれの組織が個々に活動するよりも、地域の安全は地域が一丸となって守るということで指示系統を統一した組織にした方が効果的ではないかと考える。

自主防災会や防犯パトロール隊などの各組織を統合し、通学路の危険箇所のチェックや防犯パトロール、そして災害にも対応できる組織にすれば、日頃の活動も含め防災訓練のマナー化もなくなると思う。

町では学校に緊急心肺蘇生のための A E D（自動体外式除細動器）を配備したが、各地区の地区公民館にも配備するよう計画していただければと思う。特に、舟見地区は救急車の到着までに 10 分以上もかかるのでぜひお願いしたい。

★総務課長

町では、「安全・安心のまちづくり」を重点施策と位置づけ事業を進めている。

自主防災会については、今年、青木、小摺戸、野中地区で結成され、町内 10 地区全てにおいて設置されたところである。

いつ起こるかわからない災害に対して、自分あるいは地域がどのような形で初期活動を行うのか、常に防災意識を高める必要があると考える。町としても、町全体で行う合同訓練や地域が行う自主的な防災訓練を組み合わせながら訓練のマナー化を防ぎ、災害等の際に対応できる組織づくりに努めていきたい。

また、自主防災会、防犯パトロール隊等の統合については、好ましいことであり、防災や防犯、交通安全など地域を守るという見地から統合を図っていければ良いと考えている。舟見地区においても率先してそのような体制をとっていただきたい。

町においては、自主防災会が全地区に設置され、町全体の連絡協議会を組織し、防犯パトロール隊等とも連携できるような体制づくりに努めていきたいと考えている。

★学校教育課長

本年度、AEDを各小中学校9校に配置した。AEDについては、配置すれば安心というわけではなく、それを使用するための心肺蘇生法を含めた講習会を受けていただくことが必要である。地区住民の皆さんには、講習会を受けていただき、その様子を見ながら地区公民館等への配置について考えていきたい。

(5) 冬期間の除雪と溢水対策について

☆住民

毎年、冬になると道路に水が溢れて大変である。御前林から流れてくる水が1番大変で、道路横の用水の構造が悪いと思われる。このことに関しては入善土木事務所や役場へもお願いしてあるはずだが、いつごろ対応してもらえるのか。

また、町道舟見リゾート西線について、西側へ延長されるということも聞いているが、どうなのか。また、併せてその道路横の溢水対策をお願いしたい。

★建設課長

県道の溢水は最近少なくなったといえ、やはり年に何度か溢水し、皆さん方が苦勞していることは承知している。そこで水路の改修であるが、部分的に改修してもあまり効果は上がらず、全体的な改修となると県の予算も厳しく、現状では困難である。

しかし、皆さんが苦勞しており、対応しなければならないことは県も認識しており、落雪防止網や横断溝、流雪溝の蓋の取り替え等で対応していきたいということである。

これからも地区の状況を聞かせていただき、緊急を要する箇所から順次対応したい。

町道舟見リゾート西線については、整備計画はあるが、現在、関係者との調整が整っておらず計画の再検討を行いながら、調整が整い次第調査・測量等を実施していきたいと考えている。

(6) その他

☆住民

舟川ダムの残土処理について、聞くところによるともう8号線バイパスの盛土として運び出されるということで、舟見の住民として複雑な気持ちである。

財政の厳しい状況であることは理解できるが、何とか舟見山周辺整備など地元で残土を有効に利用できる方法を考えていただけないか。

★建設課長

町としても残土については、地元のための事業に利用したいと考えており、舟見山周辺整備の中で利用できないか、地権者の皆さんとも相談しながら対応にあたってきた。

県は2、3年の利用目的であれば転用許可を出せると言っている。しかし、工事に伴う残土については4、5年間排出し続けるということであり、公園整備をするにしても、財源等のことを考えると短期間では対応できない。

したがって、現在の状況からは許可できないということある。改めて来年度、県と協議を進めたいと考えている。

☆住民

もし、合併していた場合、舟見地区はどのようなになっていたのか聞かせていただきたい。

★助役

合併した場合の舟見地区であるが、正直分らない。

☆住民

町税の収納率を上げるためにどのような対策をとっているのか。ちなみに舟見地区の収納率はどれくらいなのか。

また、補助金負担金の見直しは舟見地区にどのような影響を与えたのか。地区への補助金の件数やそのうち見直しした件数はどのくらいあるのか。

★財政係長

町税の収納率は、平成16年度決算において国民健康保険税を除く町税全体で99.5%である。滞納分については25～26%である。この数値は100%が望ましいが、県内においてはトップクラスである。

収納率を上げるための具体的な対策としては、納税について重々説明して理解していただくのはもちろん、基本的に「払わない」「逃げ得」は許さないという強い姿勢で町職員一丸となって勉強しながら臨んでいる。

また、滞納している方を一軒一軒回る臨戸徴収を行うとともに、最近は差し押さえも実施している。

★企画財政課長

税の収納率は町全体の収納率で見えており、地区毎では見ていない。

補助金の見直しについては、254事業の見直しを実施した。特にどこの地区へどうしたということはないので、舟見地区への影響額というものは出ていない。

☆住民

保育所の統廃合等について町の基本方針を教えてください。検討委員会が立ち上がっているようだが、どのような方向へ向かっているのか。

★健康福祉課長

町全体で保育所は14ヶ所あり、その中で30年以上経過しているものが3ヶ所、25年以

上経過しているものが4ヶ所で、半分以上が10年以内に何らかの対策を必要としている。

また、入所者数が大変少なくなっている箇所もあることから、町全体の保育所のあり方について、有識者や専門家等から構成される検討委員会を開催している。

中間報告の形で報告されることになるが、保育所の適正規模や適正配置について検討されており、規模としては、国では60名以上ということであるが、低年齢児保育も考慮すると80名程度は必要ではないかと提言されている。

そのような中で、基本的には統廃合は止むを得ないと考えている。その場合には、小中学校への就学も考慮し、小学校区単位での保育所設置を一つの目安として進めるべきではないかと話し合われている。また、民間委託ということについても検討すべきであるとの意見が出されている。

中間報告の結果を受け、議会とも相談しながら、今後の計画を策定していくことになる。

舟見保育所が改築時期にきていることは十分認識しており、平成18年度から始まる総合計画の後期計画においても、最優先事項として位置づけられると思われる。今後も地域の皆さんと協議しながら考えていきたいので、ご理解とご協力をお願いしたい。

☆住民

舟見山周辺整備について、山の施設を利用したオートキャンプ場のようなものを考えられないだろうか。もし、このようなものができるなら、地区でも応援できることがあるのではないかなと思う。

☆住民

町長が単独町政について語り、企画財政課長もそれを裏付けてくれた。5年後、10年後でも単独でいけるということであるが、入善町には公立病院もない。

合併とは相手があることで、入善町がその気でも相手に気がなければできないが、アクションは時期が来れば起こすべきではないか。財政的に問題がないからと言って、相手の顔を見ているだけでなく、新川地区発展のためにも広域的行政の方向にアクションを起こしていただきたい。

———— 舟見地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

- 舟川の水害ハザードマップの作成を
- 防犯パトロール隊の早期結成を
- 舟見山周辺整備の早期実現を
- 学校給食の自校方式の継続を
- 地区公民館へのAEDの設置を
- 舟見保育所の早期改修を
- 若者の定住対策のために企業誘致の推進を
- 合併のための意見交換会の開催を
- 町の方向性を知ることができ、有意義な懇談会だった
- ヤングファミリーや外国人の居住のために空き家を活用しては

地域課題・地域づくり

野中地区

日時：平成 17 年 11 月 17 日（木）

会場：農村婦人の家

(1) 地域防災について

☆住民

野中地区においても今年の7月に自主防災会を結成した。

しかし、緊急避難場所となっているあぐり館は老朽化し、耐震構造でもない。災害が発生した場合、私たちはどこへどのように避難すれば良いのかお聞きしたい。

★総務課長

現在、町においては地震による災害を想定して、避難方法、避難経路、避難場所について検討している。特に、要援護者の避難体制について、国土交通省のモデル事業を活用して取り組んでいるところである。防災マップについては今年度中に作成し、皆さんに配布したい。

あぐり館については昭和30年代に建築された旧野中小学校の一部を活用し、利用しているものである。耐震構造にはなっておらず、地震等の避難場所としては適当ではないと考えている。

平成13年に策定した防災マップを皆さんにお配りしているが、その中ではあぐり館や農村婦人の家、保育所を避難場所として位置づけている。今後、防災マップを策定する中で、耐震構造等を十分に考えながら避難場所を設定していかなければならない。農村婦人の家やひばり野小学校を視野に置きながら、避難場所の位置づけをしたい。

また、新潟中越地震では、多くの人がグラウンドに避難したということも聞いているので、あぐり館のグラウンドについても避難場所として有効であると考えている。これらを踏まえて防災マップを作成し、皆さんへ配布したい。

(2) 除雪対策について

☆住民

今年は暖冬との気象予報もあるが、現在、野中地区では至る所で下水道工事が始まっている。片側通行や通行止め、迂回路といった交通状況であり、冬期間には、通学・通勤に支障をきたさないような除雪対策を講じていただきたい。

★下水道課長

現在、主要道路等で多くの下水道工事を行っており、交通規制や迂回路等で皆さんにご迷惑をお掛けしている。

施工中の工事は、大部分が12月中に完了する予定である。

1月完了の工事についても、業者との打ち合わせの中で、なるべく12月中に工事を完了するように指導している。また、今後発注予定の工事においても早期に完了するよう進めているところである。

下水道工事施工中の路線の除雪は原則として、迂回路も含めて工事施工業者が行うこと

としており、通勤・通学に支障をきたさないよう業者への指導も徹底して行っている。

(3) 県道「黒部・朝日公園線」の整備について

☆住民

主要地方道黒部朝日公園線の整備は野中地区の永年の悲願である。しかし、長期にわたりこの整備は進まず、併せてアクセスする町道や通学路、土地改良区の工事についても進まない状況である。

平成 26 年には北陸新幹線の開業が控えており、野中地区から新幹線黒部駅へアクセスするための重要な道路になるのではないかと思います。

地区としても関係機関へ要望し続けているので、町においても、この整備促進に向けた協力をお願いしたい。

★業務用地係長

主要地方道黒部朝日公園線の整備については、これまでも県に要望してきたところである。入善土木事務所では、局部的に着手できないかということを本庁と協議をしているということである。

県の平成 18 年度予算編成においては、今年度よりもさらに厳しく対応したいとの話も出ている。この整備についても遅れてくるのでは、という心配もあるが、1 市 3 町で構成される「黒部朝日公園線改良促進期成同盟会」等の関係団体も巻き込んで、皆さん方の願いである道路が早期に整備されることを県に働きかけていきたい。

☆住民

財政状況が厳しい中ではあるが、新黒部駅へのアクセス道路としても大変重要な道路であり、早期に現道拡幅か、バイパスか青写真を出していただきたい。

(4) 「農村婦人の家」トイレ改善について

☆住民

農村婦人の家については、和式トイレが設置されている。野中地区においても高齢化が進んでおり和式では苦痛を感じるとの意見も多い。高齢者が利用しやすいバリアフリーで洋式のトイレに改修してほしい。

★生涯学習・スポーツ課長

町の施設として、築 30 年を経過するものが農村婦人の家を含め 5 ヶ所ある。地区公民館については、地域コミュニティの活動の場であるので非常に重要であると理解している。これらについて、運営協議会とも協議して、町内の公共施設全体の改修計画を立て、それ

に基づき計画的に対応していきたい。

☆住民

改修に当たっては、身障者用トイレについても検討していただきたい。

(5) あぐり館のグラウンド内の整備について

☆住民

あぐり館のグラウンドについては、排水溝のグレーチングが破損しており、排水口そのものも土砂に埋まって排水機能をなしていない。また、暗い時に利用すると怪我をする危険性もある。地域で労務提供するので整備をお願いしたい。

★生涯学習・スポーツ課長

グラウンドの排水機能改善については、施設全体の改修計画が必要になるものと考えられ、今後の検討課題としていきたい。

ただし、グレーチング破損等の軽微なものについては、皆さん方と相談し、危険なものは早急に整備していきたい。

(6) 防犯パトロール隊への助成について

☆住民

7月末に防犯パトロール隊を結成した。町からは結成に対して単年度の補助金をいただいている。今後、安全・安心のまちづくりを掲げて、防犯パトロール隊の活性化を図っていきたいと思っているので、3年間程度の活動に対する支援をお願いできないか。

★総務課長

自主防災会を結成して間もなく防犯パトロール隊を結成していただき、感謝申し上げます。

安全・安心のまちづくりの一つとして、わが地区はわが身をもって守るという精神において、子どもや高齢者といった弱者を凶悪な犯罪から守ることが大きな狙いである。自助、共助、公助の役割をリンクさせながら安全・安心のまちづくりを進めたい。

活動に対する助成の件については早急に検討していきたい。

(7) その他

☆住民

最近、食に対する考え方が乱れており、朝食を食べない人や食生活の乱れを原因とする

生活習慣病にかかる人が増加している。また、国内の食料自給率の低下や食の安全性の確保、日本の伝統的な食の喪失など社会全体の問題となっている。

特に、子どもの心身の育成や人格形成に大きな影響を与えるものであり、豊かな人間性を育み、生きる力を身に付けるためにも「食育」は、大変重要なことである。

町において積極的にこれを推進するよう、食育に対する考え方を聞かせていただきたい。

★教育長

食育に関しては、心と体の健康、人格形成に関わってくるものである。食が心や体に及ぼす影響については、科学的な研究も進んでおり、食に関する教育が全教育の基本にあるということで、食育基本法ができたと解釈している。

学校においては、普段の授業や学校給食の中で食育を取り上げていくとともに、地域や家庭と連携した取り組みが必要である。

特に、家庭での食事の乱れによる影響が非常に大きいため、来年度から地域やPTA、保護者との協働による食育推進の方法、あるいは具体的な活動を検討していきたい。

★町長

10月27日に第1回目の富山県食育推進会議が開催され、私も委員として出席した。知事をトップとして各市町村長や医師、PTAといった様々な業種の方により組織されている。食育に対してこれから取り組んでいく。

来年度には、アンケートの実施等を経て、何らかの方向性が示されると思う。

☆住民

食というのは社会全体の中で考えていかなければならない問題ということが良くわかった。学校における食育として、学校給食がある。現在、審議会がつくられて、その中で自校方式による学校給食の継続についても幅広く審議中だと聞いている。

入善町の宝である将来を担う子どものためにも、ぜひ自校方式の学校給食を存続させてほしいと要望する。

☆住民

農村婦人の家のガス湯沸し器が天井と近いため、防火上危険があるということである。設置し直すか、使用禁止にするか対応をお願いしたい。

★生涯学習・スポーツ課長

早急に確認し、対応する。

☆住民

地域のボランティアで共助し合うと町の経費も安くあがる。地域からの共助によるまちづくりの提案に対して、町としてそれに対応する制度等はあるのか。

★助役

共助によるまちづくりであるが、今のところ、それらに対応する制度はない。

ただ、例えば簡単な側溝等の整備を地域の皆さんで労務提供していただけるのならば、原材料費等については町で負担するなどの方法で早急に対応したい。

このような、地域の共助によるまちづくりは、希薄になってきていると言われる地域のコミュニティの連帯感を活性化させるという効果も期待でき、町としては今後、促進していきたいと考えている。

☆住民

勤務先が近くにあれば、防災や防犯に対しても地域に根ざした活動ができる。児童・生徒に目が届くところで働くことができれば、防犯パトロールも自然に徹底されるであろう。ぜひ、野中地区へ企業を誘致していただきたい。

★助役

企業誘致については、全国の自治体が地域の活性化を目指し、しのぎを削っている中、難しい問題である。長期的な展望の下、積極的に活動し、誘致に向けて頑張りたい。

☆住民

職員削減の報告があったが、サービスの低下につながるのではないかと心配している。

★町長

今いる人を解雇するわけではなく、これから団塊の世代が定年になる中で、退職者の3分の1程度を採用するというような形で人員の削減を行っていく。

また、町民の皆さんに分かりやすい組織づくりを心掛け、課の統廃合等を計画的に実施している。そうすることにより、課を横断した組織体制を構築し、いわゆる縦割りの弊害等も解消され则认为している。

サービスの維持・向上を基本に、職員一人ひとりの資質の向上に努め、町民の目線に立った行政運営に心掛けていきたいと考えている。

☆住民

野中地区は落雷が多い地域であり、北陸電力も認識している。

停電の際、北陸電力に連絡しても、なかなか返事がもらえず、復旧までに大変時間がかかる。高齢者も多く、特に冬期間の停電については、ストーブなど火を使った暖房器具の使用もあり、大変危険である。

何か良い連絡方法があれば教えていただきたい。

★健康福祉課長

独居高齢者家庭等の見守りについては、町でも様々なサービスを行っている。緊急通報装置を設置して、緊急時に連絡していただくというサービスや福祉推進員による見守りな

どを行っている。そういった中でできるだけ助け合っていたきたい。

★総務課長

停電については、役場、消防署、警察、電力会社で連絡を取り合っている。

夜中は消防署、日中なら総務課に連絡いただければ、電力会社に要請したい。

———— 野中地区の皆様からのご意見（主なもの） ————

○自主防災会や防犯パトロール隊の結成によりボランティア意識が高揚した

○スマートＩＣのアクセス道路の整備促進を

○学校給食の自校方式の継続を

○食育の推進を

○職員の削減によるサービスの低下を招かないように

○除雪体制の強化を

○行財政改革について分かりやすい説明が聞けた